FUJIFILM

Digital Camera

FinePix 4900Z

使 用 説 明 書

この説明書には、フジフイルムデジタルカメラファインピックス4900Zの使い方がまとめられています。内容をご理解の上、正しくご使用ください。

BB11855-100(2)

目　次

4 応用編 再生

5 設定編

1
2
3
4
5

はじめに

▶ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やデータの記録されたメモリーカード（スマートメディア）の伝送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分に注意してください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- **皮膚に付着した場合：**
  付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- **目に入った場合：**
  きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- **飲み込んだ場合：**
  水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

- 本カメラはクラスB情報技術装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で、住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しています。しかし本カメラをラジオ、テレビジョン受信機に近づけてお使いになると、受信障害の原因となることがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- この機器を飛行機や病院の中で使用しないでください。使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像データが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について

- iMac、Macintoshは、Apple Computer, Inc.の商標です。
- Windowsは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- SmartMediaは株式会社 東芝の商標です。
- その他の社名と商品名は各社の商標または登録商標です。

カメラの特長 / 付属品

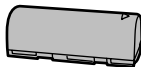
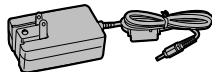
カメラの特長

- 新開発“ スーパーCCDハニカム ”搭載により記録画素数432万の高画質
- 非球面レンズを採用した高性能光学6倍ズーム搭載一眼方式
- マニュアル露出を含む多彩な撮影モードで細かな条件設定が可能
- 起動約3秒、撮影間隔最短約1秒と軽快な操作感
- 高感度ISO200（標準）と内蔵オートストロボにより撮影領域を拡大
- 低ノイズ（ISO125）、高感度（ISO400/800）設定可能
- 外部ストロボ使用可能
- マクロ撮影機能付きオートフォーカス（マニュアルフォーカス可能）
- 被写体に適した条件を設定できる撮影シーン別オート撮影モード
- 撮影結果の確認に便利なプレビュー機能
- 最大画素数でも可能な連写機能
- なめらかな（多段階）デジタルズーム機能（メガピクセル時1.88倍）／再生ズーム機能（最大15倍）
- 必要なときにワンプッシュで設定状態の一覧ができるインフォメーションボタン
- 動画撮影可能（320×240ピクセル）
- 2型13万画素低温ポリシリコンTFT液晶モニター/0.55型11万画素液晶ファインダー
- マグネシウム合金ボディ
- USB接続端子により簡単高速にパソコンへ画像データ転送が可能（別売オプションで対応）
- 簡単プリントを実現するDPOF（Digital Print Order Format）対応
- デジタルカメラの業界統一規格DCF*準拠

  ＊DCFは日本電子工業振興協会（JEIDA）で制定された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

※USBインターフェースセット IF-UB/Fやフロッピーディスクアダプター FD-A2B、イメージメモリーカードリーダー SM-R2、PCカードアダプター PC-AD3Bを使えば、パソコンとの連携も一層便利です。

付属品

- **充電式バッテリー NP-80 容量1300mAh（1本）**

- **ACパワーアダプター AC-5VN**
  接続コード：約2m（1台）

- **ショルダーベルト（1本）**

- **レンズキャップ（1個）**

- **ビデオケーブル**
  φ3.5mmミニプラグ×ピンプラグ：約1.5m（1本）

- **使用説明書（本書1部）**
- **安全上のご注意（1部）**
- **保証書（1部）**

各部の名称

＊(　)内のページに詳しい説明があります。

AE-L（AEロック）ボタン（P.52）
（フォーカス確認）ボタン（P.55）
EVF/LCD（ファインダー/
モニター切り換え）ボタン
（P.20、30）
液晶ファインダー（EVF）
DISP（表示）ボタン
（P.28）
SHIFT（シフト）ボタン
（P.97、102）
液晶モニター（LCD）
BACK（戻る）ボタン
三脚用ねじ穴
MENU/OK（メニュー/実行）
ボタン
コマンドダイヤル
ベルト取り付け部（P.12）
スロットカバー（P.15）
スマートメディア
スロット（P.15）
バッテリーカバー
（P.13）
十字（▲▼◀▶）ボタン

各部の名称

ストロボ調光センサー
ストロボ（P.47）
ストロボポップアップ
ボタン（P.47）
レンズ部
フォーカスモード切り換え
スイッチ（P.54）
ズームボタン（P.22）
(露出補正) ボタン（P.53）
(カスタムホワイトバランス)
ボタン（P.63）
デジタル（USB）端子
（P.105）
VIDEO OUT（映像出力）端子
（P.36）
DC IN 5V（電源入力）端子
（P.14）
端子カバー（P.14）
INFO（情報確認）ボタン（P.60、72）

モードレバー

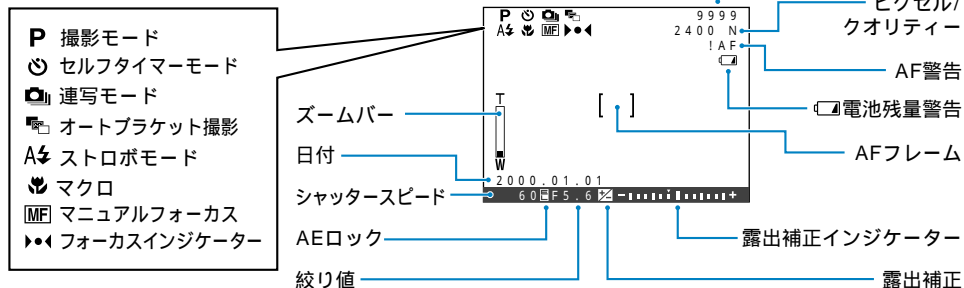
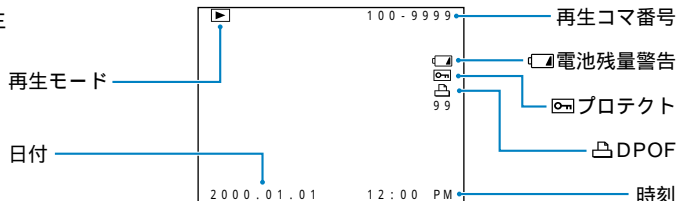
モードダイヤル

各部の名称

モニターの文字表示例：撮影

- P 撮影モード
- セルフタイマーモード
- 連写モード
- オートブラケット撮影
- A ストロボモード
- マクロ
- MF マニュアルフォーカス
- フォーカスインジケーター

P
A
MF
9999
2400 N
! AF
T
W
2000. 01. 01
60 F5. 6

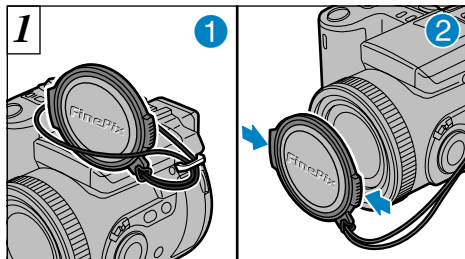
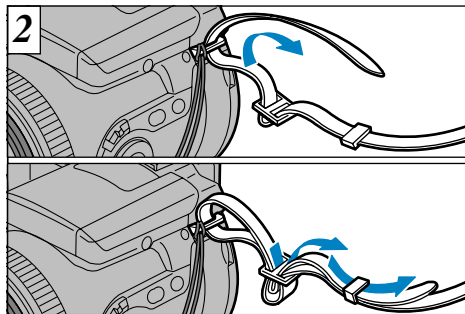
撮影可能枚数
ピクセル/クオリティー
AF警告
電池残量警告
AFフレーム
ズームバー
日付
シャッタースピード
AEロック
絞り値
露出補正インジケーター
露出補正

モニターの文字表示例：再生

シャッタースピード・絞り値表示について

撮影モードの制御範囲を超えてしまう場合(極端な露出オーバー・露出アンダーの撮影シーンなど)、画面内の“シャッタースピード”または“絞り値”が「赤色」で表示されます。
薄暗いシーンでは、画面内の“シャッタースピード”と“絞り値”が「----」表示になります。その場合シャッターボタンを半押しすると測定されて、値が表示されます。

■撮影モードと対処方法

	撮影モード	対処方法
露出オーバー	AUTO(オート) SS(シーンセレクト) P(プログラム)	別売の“アダプターリング”と“ND(光量調節用)フィルター”を使用してください(➡107ページ)。
	S(シャッター優先)	より高速側のシャッタースピード(～1/1000)に設定してください(➡40ページ)。*1
	A(絞り優先)	より大きい数値の絞り値(～F11)に設定してください(➡40ページ)。*1
	M(マニュアル)	より高速側のシャッタースピード(～1/1000)、より大きい数値の絞り値(～F11)に設定してください(➡42ページ)。*1
露出アンダー	AUTO(オート) SS(シーンセレクト) P(プログラム)	ストロボ撮影をしてください。
	S(シャッター優先)	より低速側のシャッタースピード(～3")に設定してください(➡40ページ)。*2*3
	A(絞り優先)	より小さい数値の絞り値(～F2.8)に設定してください(➡40ページ)。*2*3
	M(マニュアル)	より低速側のシャッタースピード(～3")、より小さい数値の絞り値(～F2.8)に設定してください(➡42ページ)。*2*3

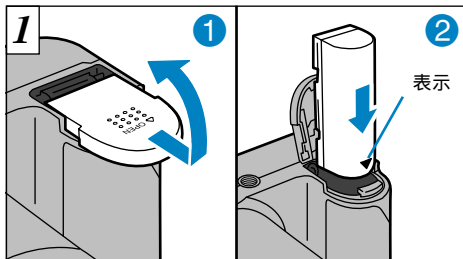
＊1　設定値を変更しても露出オーバーの場合、別売の“アダプターリング”と“ND(光量調節用)フィルター”を使用してください(➡107ページ)。
＊2　設定値を変更しても露出アンダーの場合、ストロボ撮影をおすすめします(➡47ページ)。
＊3　ストロボを使用しない場合、シャッタースピードが低速になるので三脚の使用をおすすめします。

レンズキャップとショルダーベルトを取り付けます

❶レンズキャップのヒモを、ベルト取り付け部に通して引っ張ります。
❷レンズキャップは左右を押しながら取り付け、取り外しします。

ショルダーベルトを、ベルト取り付け部に通して、取り付けます。反対側も同じように取り付けてください。
取り付け後は、ショルダーベルトが外れないことを十分にご確認ください。

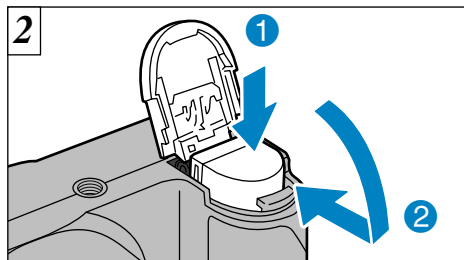
! レンズキャップをなくさないように、ヒモを取り付けることをおすすめします。
! 撮影するときは、必ずレンズキャップを外してください。

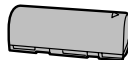
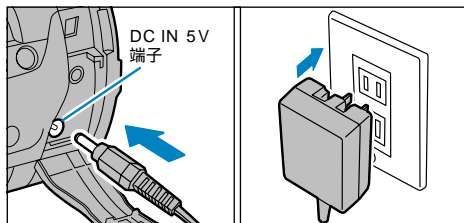
! 取り付けかたを間違えると落下する場合があります。

電源をセットします

バッテリーのセット

❶バッテリーカバーを矢印の方向にスライドさせてから開けます。
❷バッテリーの“ ▼ ”表示がある側からバッテリーを入れます。

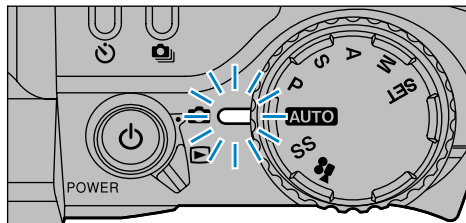
❶バッテリーを押し込みながら❷バッテリーカバーを閉めます。

! バッテリーカバーに無理な力を加えないでください。
! バッテリーを交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずにバッテリーカバーを開けると、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。
! バッテリーを入れる方向にご注意ください。金色の端子のある側からバッテリーを入れます。

◆使用するバッテリー◆

充電式バッテリー NP-80　1本

! 工場出荷時にバッテリーはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。
! バッテリーについてのご注意は112、113ページをご参照ください。

ACパワーアダプターのセット

カメラの電源が切れていることを確認します。端子カバーを開けACパワーアダプターの接続プラグを“ DC IN 5V ”端子に差し込み、その後、電源コンセントに差し込みます。
バッテリーの消耗を気にせず撮影・再生・データ転送（USB接続）するには、専用のACパワーアダプター AC-5VN/AC-5VHをご使用ください。

- AC-5VN/AC-5VH以外をお使いになると、本機の故障の原因になることがあります。
- ACパワーアダプターについてのご注意は、114ページをご参照ください。

バッテリーを充電する

バッテリーをセットし、ACパワーアダプターを接続します。約3秒後にインジケーターランプが橙色に点灯し、充電が開始されます。充電が完了するとインジケーターランプが消灯します。

- 使いきったバッテリーの充電時間は約5時間です。
- フル充電に近いバッテリーは充電しませんが故障ではありません。
- 充電中に電源を入れると、充電が中断されます。
- 接続プラグがカメラに正しく差し込まれていないと、充電されません。
- 別売りのバッテリーチャージャーBC-80を使用すると充電時間を短縮できます（➡108ページ）。

スマートメディア™をセットします

スマートメディア™（別売）

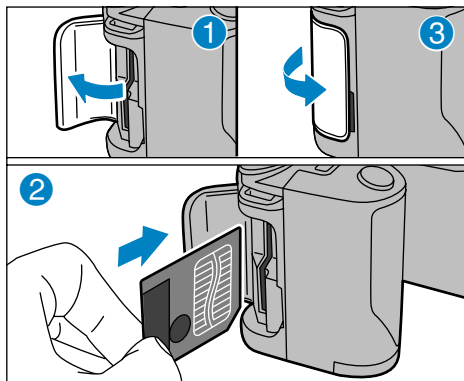
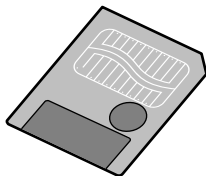
スマートメディアは必ず3.3V仕様をお使いください。

- ●MG-4SB(4MB)
- ●MG-8SB(8MB)
- ●MG-16SB(16MB)
- ●MG-32SB(32MB)
- ●MG-16SW(16MB:ID付き)
- ●MG-32SW(32MB:ID付き)
- ●MG-64SW(64MB:ID付き)

❗ライトプロテクトシールがはられていると、記録、消去ができません（➡83ページ）。

❗本カメラでの動作保証は弊社製スマートメディアのみとなります。

❗3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。

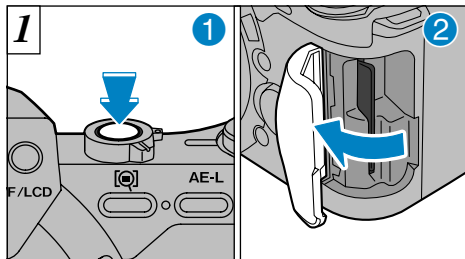
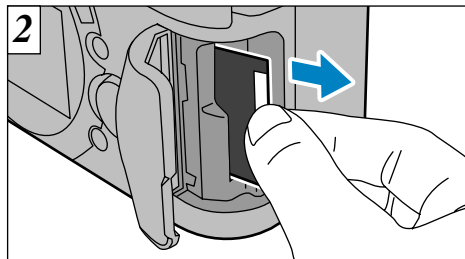
❗スマートメディアについてのご注意は、115ページをご参照ください。

①電源が切れていることを確認します。スロットカバーを開けます。

②スマートメディアスロットにスマートメディアを確実に奥まで差し込みます。

③スロットカバーを閉めます。

❗電源が入った状態でスロットカバーを開けると、スマートメディア保護のため電源が切れます。

❗スマートメディアの向きが間違っていると奥まで入りません。また、無理な力を加えないでください。

スマートメディア™を取り出します

①インジケーターランプが緑色に点灯していることを確認し、電源を切ります（➡次ページ）。
②スロットカバーを開けます。

スマートメディアをつまんで取り出します。

スロットカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。スマートメディア、または画像データが破壊されることがあります。

! スマートメディアを保管するときは、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。

◆画像のプリントとパソコンへの取り込みについて◆

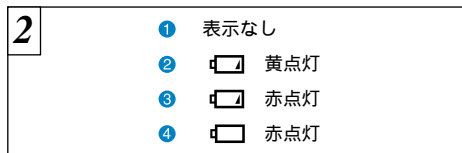
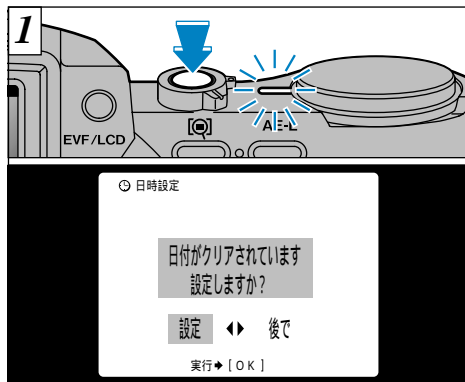
- プリントするときは、84、103ページをご参照ください。
- パソコンに画像を取り込むには、104～106ページをご参照ください。

電源のON/OFF

電源を入/切するには、“ ⏻ ”（電源）ボタンを押します。電源を入れるとインジケーターランプ（緑）が点灯します。
日時が設定されていない場合は、確認画面が毎回表示されます。“ ◀▶ ”で“ 設定 ”または“ 後で ”を選び“ MENU/OK ”ボタンを押します（“ 設定 ”を選んだ場合➡19ページ）。

❗ モードレバーを“ 📷 ”にして電源を入れると、レンズ部が動きますので手で押さえないでください。

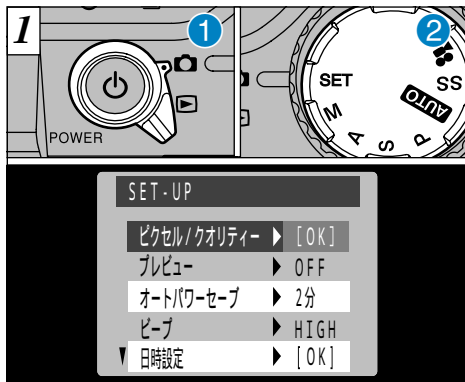
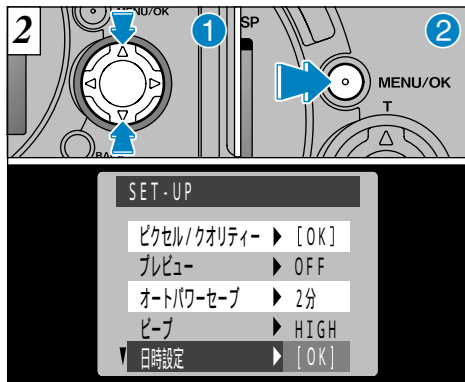
2

- ❶ 表示なし
- ❷ 黄点灯
- ❸ 赤点灯
- ❹ 赤点灯

電源を入れ、バッテリー容量表示を確認します。

❶ **バッテリーの容量は十分です（表示なし）。**
❷ **バッテリーの残容量は約半分以下です。**
❸ **バッテリーの容量が不足しています。まもなく電源が切れますので、バッテリーを交換するか充電をおすすめします。**
❹ **バッテリーの容量がありません。ただちに表示が消えて動作を終了します。バッテリーを交換するか充電をしてください。**

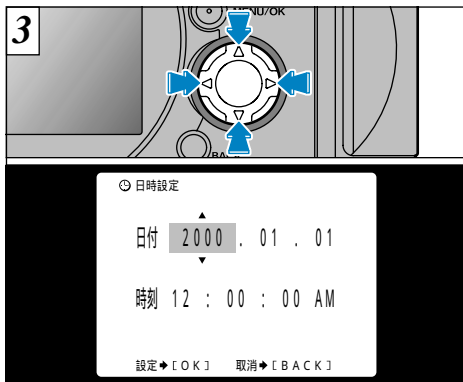
◆オートパワーセーブ機能◆

機能有効時は、約15秒間操作をしないと画面などを消し、消費電力を抑えます。その後、しばらく放置（2分または5分）すると自動的に電源が切れます（詳しくは➡100ページ）。

日時を合わせます

❶モードレバーを“ 📷 ”にし、❷モードダイヤルを“ SET ”に合わせます。液晶モニターにSET-UP（セットアップ）画面が表示されます。

電源投入時に日時がクリアされている場合、確認画面が表示されます。“ 設定 ”を選択した場合、3から操作します（次ページ）。

❶“ ▲▼ ”で“ 日時設定 ”を選択します。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押します。

! “ SET ”（セットアップ）のメニューについて、詳しくは95ページをご参照ください。

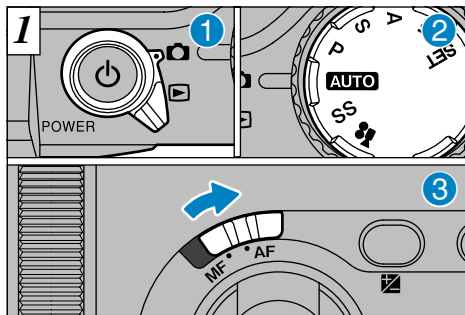
! 設定した日時は、ACパワーアダプターを接続またはバッテリーを入れて約3時間以上経過していれば、カメラから両方とも取り外しても、約1時間保持されます。

“◀▶”で合わせたい項目（年・月・日・時・分）を選び、“▲▼”で修正します。

合わせ終わったあと、“ MENU/OK ”ボタンを押して設定します。画面がSET-UPに戻ります。モードダイヤルを“ SET ”以外に合わせてSET-UPを終了します。

1

- “ ▲ ”または“ ▼ ”を押し続けると数字が連続して変わります。
- 秒は設定できません。
- 時刻表示で“ 12:00:00 ”を越えると、自動的にAM/PMが切り換わります。

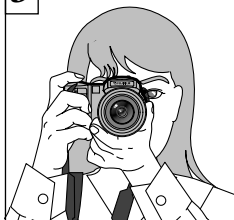
- 電源投入時に“ 設定 ”を選んだ場合は撮影または再生になります。
- 秒は設定できませんが、時報に正確に合わせるにはゼロ秒時に“ MENU/OK ”ボタンを押します。

撮影してみましょう（オート撮影）

❶モードレバーを“ 📷 ”にし、❷モードダイヤルを“ AUTO ”に合わせます。❸フォーカス切り換えスイッチを“ AF ”側にスライドします。

●撮影可能距離
　広角側：約50cm〜無限遠
　望遠側：約90cm〜無限遠

“ EVF/LCD ”ボタンを押すたびに、ファインダー（EVF）とモニター（LCD）のどちらを使用して撮影するか切り換えできます。

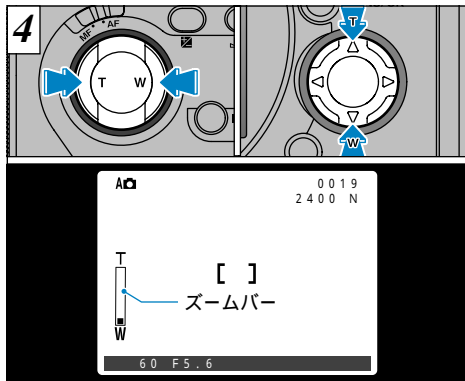
! 日付が点滅表示された場合は、日時を設定してください（➡18ページ）。
! 近距離撮影ではマクロを設定してください（➡51ページ）。

EVF/LCDの切り換え設定は、モード切り換え・電源OFFでも保持されます。

ショルダーベルトを肩に掛けます。右手でグリップ部を持ち、左手でカメラをしっかり支えます。

タテ位置撮影では、左手にカメラの重心がのるようにしっかり構えます。

❗ レンズが汚れていないか確認してください。汚れている場合は111ページを参照してレンズをきれいにしてください。

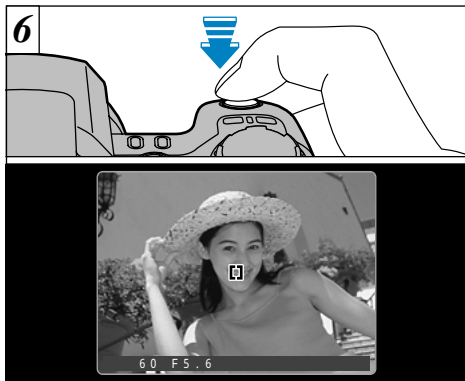
❗ オートストロボの使用をおすすめします（➡48ページ）。

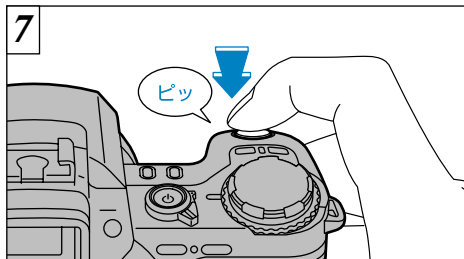
❗ 撮影するときカメラが動くと、画像がブレる原因になります。とくに、暗い場所で撮影する場合は手ブレ防止のためストロボ撮影（➡47ページ）を行うか、三脚の使用をおすすめします。

ズームボタンか十字(▲▼)ボタンでズームできます。被写体を大きく写すときは、T側を押します。広い範囲を写すときは、W側を押します。このとき画面に"ズームバー"が表示されます。

! タテ位置撮影では、十字(▲▼)ボタンでのズーム操作をおすすめします。

! 焦点距離が約35mm〜210mm(35mmカメラ換算)の6倍ズームです。
電源を入れたときの焦点距離は約50mm相当です。

被写体がAF(オートフォーカス)フレーム全体を満たすようにねらいます。

! 被写体がAFフレームから外れてしまう場合は、AF/AEロック撮影を行ってください(➡26ページ)。

シャッターボタンを半押しすると、画面のAFフレームが小さくなりピントが合います。このとき“シャッタースピード/絞り値”が決定されます。

- シャッターボタンを半押しすると、一時的に画面の映像が止まりますが、記録される画像とは異なります。
- 暗くてピントが合わない場合は、被写体から2.0m程度離れて撮影してください。

半押しのままさらにシャッターボタンを押し込むと（全押し）、“ピッ”と音が鳴り撮影されます。続いて画像データが記録されます。

- シャッターボタンをいっきに全押しすると、AFフレームは変化せずそのまま撮影されます。
- 撮影するとインジケーターランプが橙色に点灯し（撮影不可）、その後緑色に変わると撮影できます。
- ストロボ充電中はインジケーターランプが橙色に点滅します。
- 被写体（画像の細かさなど）によって記録されるデータ量が一定ではないため、記録後の撮影可能枚数が減らないか、または2コマ減る場合があります。
- 警告表示については、117ページをご参照ください。

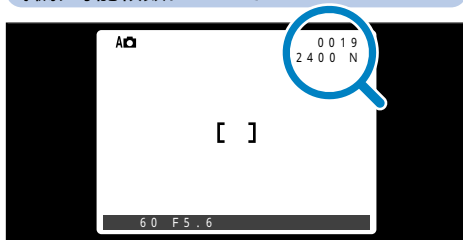
■インジケーターランプ表示について

色	状態	内容
緑	点灯	準備完了
	点滅	AF・AE動作中または手ブレ、AF警告、スマートメディアに記録中（次の撮影可能）
橙	点灯	●スマートメディアに記録中（次の撮影不可） ●バッテリー充電中
	点滅	ストロボ充電中
赤	点滅	●**スマートメディアについての警告** 未挿入、未フォーマット、フォーマット異常、ライトプロテクトシールがはられている、空き容量がない、スマートメディア異常 ●**バッテリー充電動作異常** ●**レンズ動作異常** ＊画面に詳しい警告が表示されます（➡117ページ）。

◆オートフォーカスの苦手な被写体◆

このカメラは、正確なオートフォーカス機構を採用していますが、次のような条件・被写体に対してはオートフォーカスが働きにくく、ピントが合わない状態で撮影されることがあります。

- 鏡・車のボディーなど光沢があるもの
- ガラス越しの被写体
- 髪の毛や毛皮のように光を反射しにくいもの
- 煙や炎などのように実体のないもの
- 被写体が遠くて暗いとき
- 被写体の明暗差がはっきりしないとき（白壁や背景と同色の服を着ている人物など）
- 被写体の手前や後方に物体が共存するとき（オリの中の動物や木の前の人物など）
- 高速で移動する被写体

撮影可能枚数について

画面（左図の位置）に、撮影可能枚数が表示されます。

❗ピクセル（画像サイズ）/クオリティー（圧縮率）の変更は、97ページをご参照ください。

❗工場出荷時設定は、2400×1800（ピクセル）、NORMAL（クオリティー）です。

■スマートメディア標準撮影枚数

［撮影枚数は被写体により多少の増減があります。また、撮影枚数はスマートメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。］

ピクセル	2400×1800				1600×1200		1280×960		640×480
クオリティー	HI	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	NORMAL
画像1枚のデータサイズ	約12715KB	約1700KB	約810KB	約330KB	約770KB	約390KB	約620KB	約320KB	約90KB
MG-4S（4MB）	0	2	4	11	4	9	6	12	44
MG-8S（8MB）	0	4	9	23	10	19	12	25	89
MG-16S（16MB）	1	8	19	46	20	39	25	49	163
MG-32S（32MB）	2	18	38	94	41	79	50	99	330
MG-64S（64MB）	5	36	77	189	82	159	101	198	663

＊スマートメディアをフォーマットした状態の撮影可能枚数です。

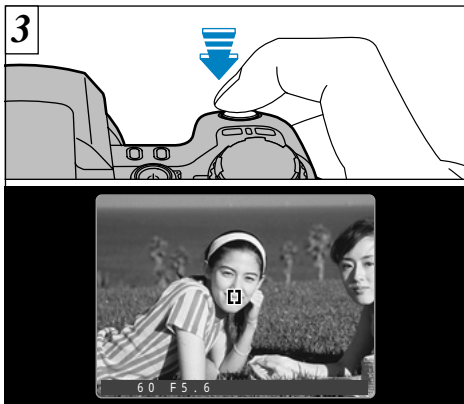
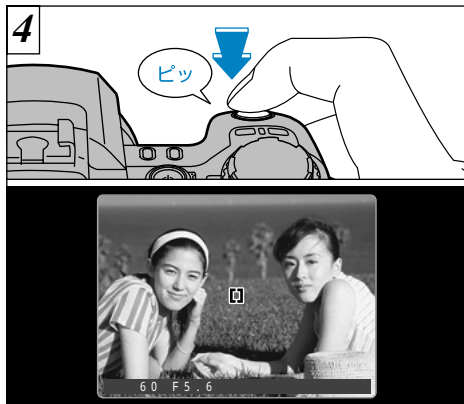
AF/AEロック撮影

このような構図では被写体(この場合は人物)がAFフレームから外れています。このまま撮影すると人物にピントが合いません。

被写体がAFフレームに入るようにカメラを少し動かします。

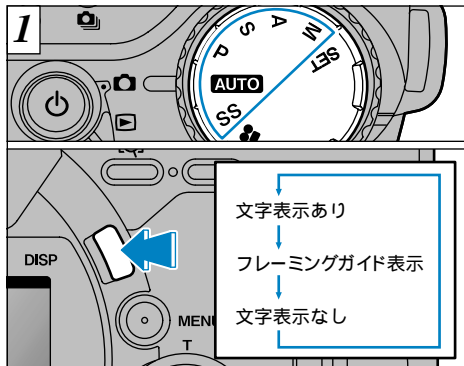
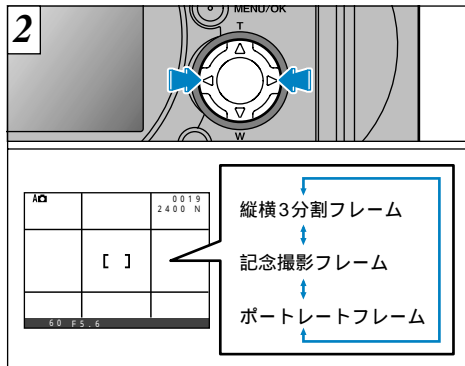
フォーカス切り換えスイッチが“ AF ”側になっていることを確認してください。

◆AF(オートフォーカス)/AE(オートエクスポージャー)ロック◆

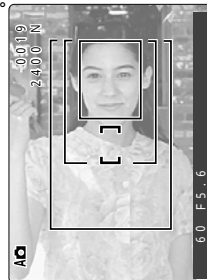
このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定(AF/AEロック)します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。

そのままシャッターボタンを半押し（AF/AEロック）します。画面のAFフレームが小さくなり、“シャッタースピード/絞り値”が決定されます。

シャッターボタンを半押し（AF/AEロック）のまま最初の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込みます。

! AF/AEロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

! AF/AEロック撮影は、どのような撮影方法でも有効です。AF/AEロックをうまく活用しましょう。

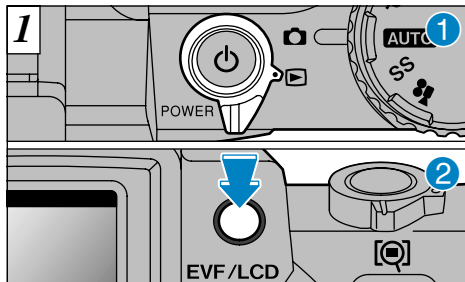
ベストフレーミング機能

“ 🎥 ”を除く撮影モードでは、“ DISP ”ボタンを押すごとに画面の表示が切り換わります。“ DISP ”ボタンを押して“ フレーミングガイド ”を表示します。

“ ◀▶ ”で3種類のフレーミングガイドを選択できます。フレーミングガイドは撮影するときに、構図を決める際のめやすになります。

❗ フレーミングガイドは画像に記録されません。

縦横3分割フレーム	記念撮影フレーム	ポートレートフレーム（人物縦位置撮影フレーム）
主要な被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせて使用します。被写体の大きさやバランスを見ながら、躍動感のある構図で撮れるもっとも応用の効くフレームです。	2人以上の記念撮影に使用します。 被写体をフレームの中にできるだけ大きく配置すると、表情をはっきり写し込んだ写真になります。	ポートレート撮影に使用します。顔の大きさを各フレームに合わせることにより、大きなフレームはアップ、中ぐらいのフレームは胸から上、小さなフレームは半身の撮影になります。被写体から90cm以上離れ、ズームを使用して撮影します。

❗縦横3分割フレームのラインは、縦横の記録画素数の3分割のめやすです。プリントすると、3分割の位置から少しずれる場合もあります。

◆重要◆

必ずAF/AEロックを使って構図を決めてください。
AF/AEロックをしないとピントが合わないことがあります。

画像を見るには（再生）

❶モードレバーを“ ▶ ”に合わせます。
❷“ EVF/LCD ”ボタンを押すたびに、ファインダー（EVF）とモニター（LCD）を切り換えできます。

! モードレバーを“ ▶ ”に合わせたときは、最後に撮影した画像が再生されます。

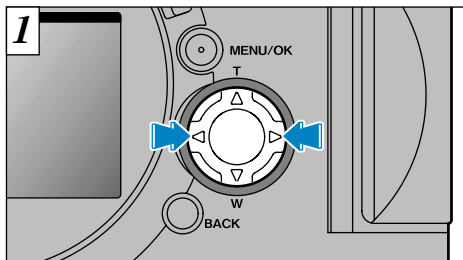
EVF/LCDの切り換え設定は、モード切り換え・電源OFFでも保持されます。

“ ▶ ”順送り、“ ◀ ”逆送りで画像を見ることができます。また、“ DISP ”ボタンを押すたびに画面の表示が切り換わります。

! 画面が見にくい場合は、画面の明るさを調節してください（➡102ページ）。

◆再生できる静止画データについて◆

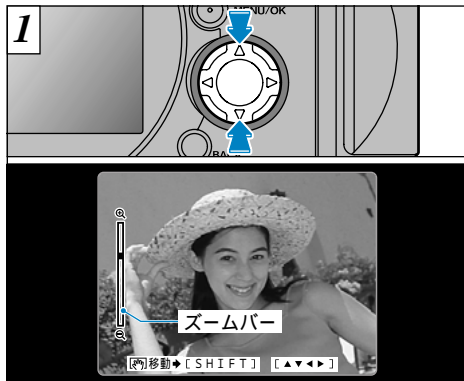
本機で記録した静止画データ、または弊社製デジタルカメラ FinePixシリーズ、CLIP-IT80/50、DS-30/20/10およびDS-260HD/250HD/230HD、あるいはそのほかのDCF対応カメラで、3.3V仕様のスマートメディアに記録した静止画（一部非圧縮を除く）データが再生できます。

画像の早送り

再生中に“◀”または“▶”を約3秒間押し続けると、画像を早送りできます。

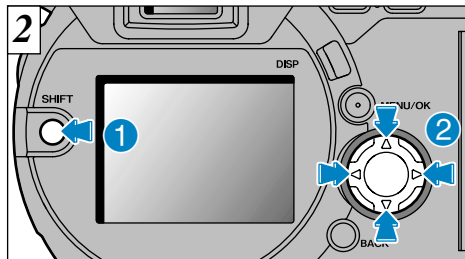
早送り中は小さく3コマ同時に表示されます。早送りをやめると、枠で囲われた画像が1コマ表示されます。

2

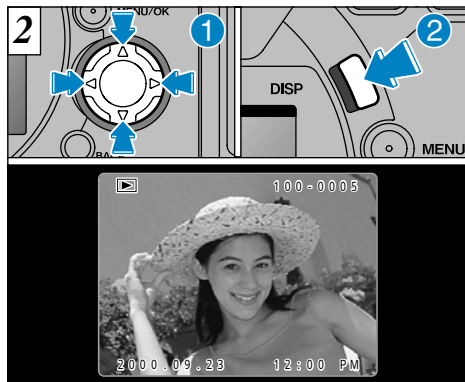
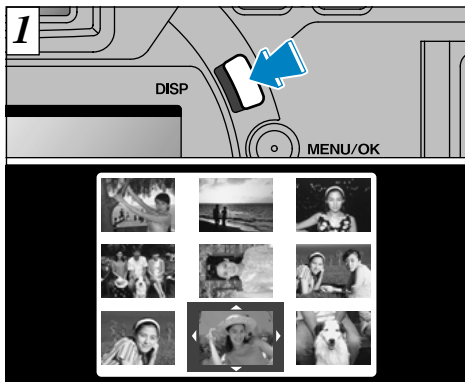
❗スマートメディア内のおおよその再生位置が、めやすとなるバーで表示されます。

再生ズーム

再生中に“▲▼”を押すと、静止画をズーム(拡大)します。このとき“ズームバー”が表示されます。

●ズーム倍率
2400×1800ピクセル画像：最大15倍
1600×1200ピクセル画像：最大10倍
1280×　960ピクセル画像：最大8倍
　640×　480ピクセル画像：最大4倍

! ズーム中に“◀▶”を押すと、ズームが解除され次の画像に送られます。

ズームしたあとに、❶“SHIFT”ボタンを押しながら❷“▲▼◀▶”を押すと、見える範囲を移動できます。

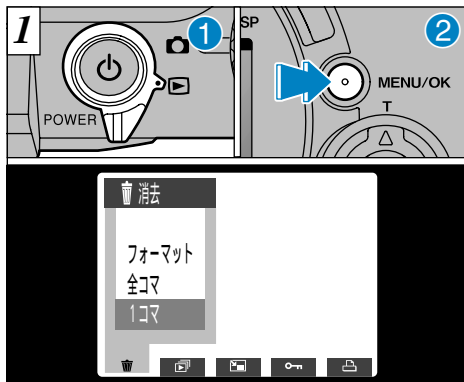
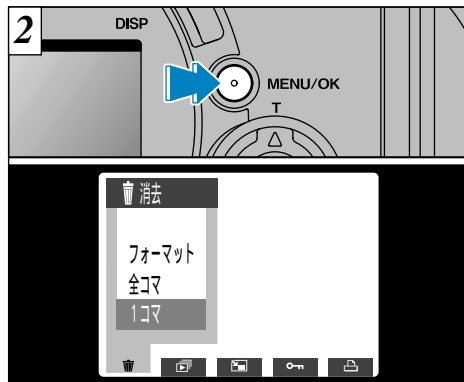
! “BACK”ボタンを押すと、画像が等倍に戻ります。

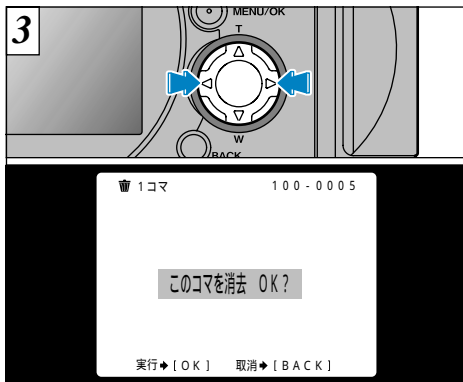
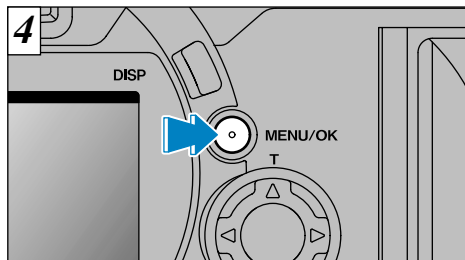
マルチ再生

“ DISP ”ボタンを2回押すと、マルチ再生（9コマ）画面になります。

❶“ ▲▼◀▶ ”でカーソル（橙色の枠）を動かして、コマを選べます。数回“ ▲ ”か“ ▼ ”を押すと次の画面に切り換わります。
❷もう一度“ DISP ”ボタンを押すと、選んだ画像を大きく表示することができます。

❗液晶モニターの文字表示は、約3秒後に消えます。
❗再生ズーム中はマルチ再生はできません。

❗マルチ再生は、1コマ消去、1コマプロテクト、リサイズ、DPOF1コマ設定、DPOF全コマ設定/解除で画像を選択する場合に便利です。

画像を消すには（1コマ消去）

❶モードレバーを“ ▶ ”に合わせます。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押すとメニューが表示されます。

“ 🗑 消去 ”の“ 1コマ ”が選択された状態で、“ MENU/OK ”ボタンを押します。

❗全コマ消去、フォーマットについて、詳しくは75ページをご参照ください。
❗画像を選ぶときは、マルチ再生（➡33ページ）すると便利です。

“◀ ▶”を押して消去したい画像を表示します。

“MENU/OK”ボタンを押すと、表示している画像が消去されます。消去が終わると次の画像が再生され、“ このコマを消去 OK? ”が表示されます。

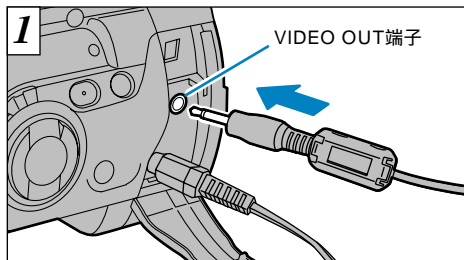
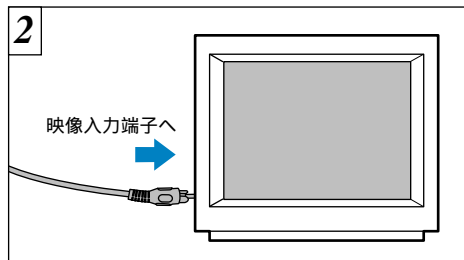
❗1コマ消去をやめたい場合は、“BACK”ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するには、もう一度“BACK”ボタンを押してください。

❗“ ❗PROTECTされています ”が表示された場合、プロテクトを解除する必要があります（➡80ページ）。

❗“ DPOF指定されていますこのコマを消去しますか？ ”が表示された場合は、DPOF指定されています。“MENU/OK”ボタンを押すと画像を消去し、DPOF指定が更新されます。

消去を続けるには、3からの操作を繰り返します。

2

テレビに画像を映す場合

カメラとテレビの電源を切ります。カメラの“VIDEO OUT”端子にビデオケーブル（付属品）のプラグを接続します。

テレビの映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影、再生を行ってください。

! コンセントが近くにある場合は、ACパワーアダプター AC-5VN/AC-5VHを接続することをおすすめします。

! テレビの映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。

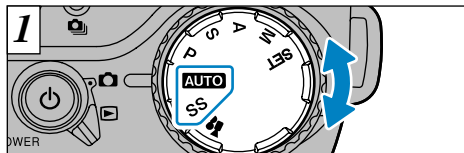
応用編 撮影では

応用編 撮影では、モードレバーを“ ”に合わせた状態で行えるいろいろな機能をご紹介します。

■撮影モード仕様一覧

撮影モード	設定可能撮影メニュー	工場出荷時	ストロボ (P.47)	マクロ (P.51)	AEロック (P.52)	露出補正 (P.53)	MF (P.54)	連写 (P.57)	セルフタイマー (P.58)
AUTO オート (➡38ページ)	なし	——	A⚡、◉ ⚡、SLOW	○	○	×	○	○	○
SS シーンセレクト (➡38ページ)	なし	——		×	○	×	○	○	○
ポートレート (➡39ページ)			A⚡、◉ ⚡、SLOW						
風景 (➡39ページ)			⊛						
スポーツ (➡39ページ)			A⚡、⚡						
夜景 (➡39ページ)			SLOW、◉SLOW						
P プログラムオート (➡40ページ)	ストロボの明るさ補正 ホワイトバランス 測光モード 感度 オートブラケティング シャープネス 外部ストロボ	0 AUTO マルチ 200 OFF NORMAL OFF	◉、⚡ SLOW、◉SLOW	○	○	○	○	○	○
S シャッター優先オート (➡40ページ)			◉、⚡	○	○	○	○	○	○
A 絞り優先オート (➡40ページ)			◉、⚡ SLOW、◉SLOW	○	○	○	○	○	○
M マニュアル (➡42ページ)			◉、⚡	○	×	×	○	○	○
ムービー（動画） (➡44ページ)	なし	——	×	×	×	×	×	×	×

※ 連写・ オートブラケティングでは、ストロボは使用できません。

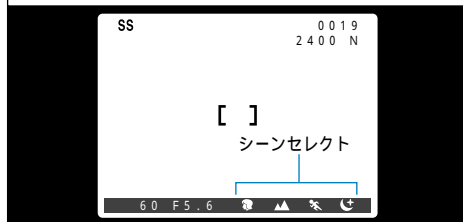
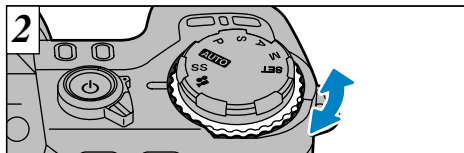
撮影モード AUTO オート/SS シーンセレクト

モードダイヤルを回してセットします。

AUTO オート

最も簡単に撮影できる、撮影用途の広い撮影モードです。

SS シーンセレクト

撮影シーンに適した撮影モードです。

! マクロ撮影は使用できません。

SSシーンセレクトモードでは、・・・の４種類からシーンを選べます。コマンドダイヤルを回してセットします。

ポートレート

人物撮影に適したモードです。肌の色がきれいに見えるようにし、ソフトな感じに仕上がります。

- ホワイトバランス
  オート設定になります。
- ストロボ使用時
  オートストロボ・赤目軽減・強制発光・スローシンクロ

スポーツ

動体撮影に適したモードです。高速側のシャッター優先の撮影が行われます。

- シャッター
  高速側のシャッタースピードで撮影されます。
- ホワイトバランス
  オート設定になります。
- ストロボ使用時
  オートストロボ・強制発光ストロボのみ。

風景

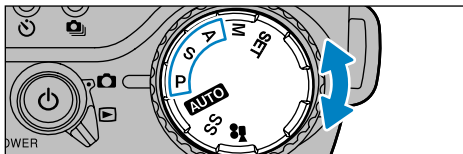
昼間の風景撮影に適したモードです。建物や山など風景をくっきりと仕上げます。

- ホワイトバランス
  屋外光に適した設定になります。
- ストロボ使用時
  自動的に発光禁止になり、設定は変えられません。

夜景

夕景や夜景の撮影に適したモードです。スローシャッター優先の撮影が行われます。

- シャッター
  スローシャッターモードで、最長約3秒。
- ホワイトバランス
  晴れた屋外（☀）の設定になります。
- ストロボ使用時
  スローシンクロ・赤目軽減＋スローシンクロのみ。

P プログラム/S シャッター優先/A 絞り優先

モードダイヤルを回してセットします。

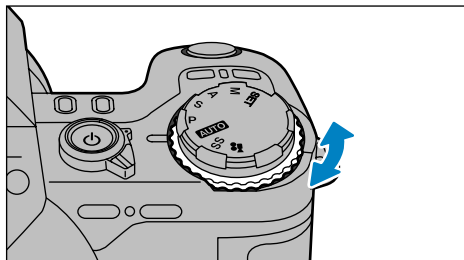
P プログラムオート

シャッタースピード/絞り以外の各種設定ができるオートモードです。比較的簡単にシャッター優先・絞り優先のように撮影できます（プログラムシフト）。

S シャッター優先オート

シャッタースピードを設定できるオートモードです。動きの一瞬をとらえる（高速）、動きを表現する（低速）などの撮影ができます。

A 絞り優先オート

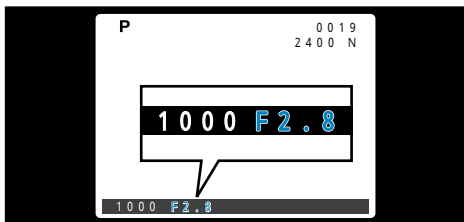
絞り値を設定できるオートモードです。
背景をぼかす（開放）、遠くまでピントを合わせる（絞る）撮影ができます。

コマンドダイヤルを回すと次のことが可能です。

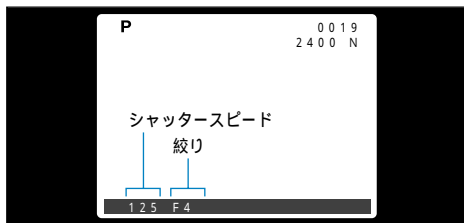
P：プログラムシフト

S：シャッタースピードの設定

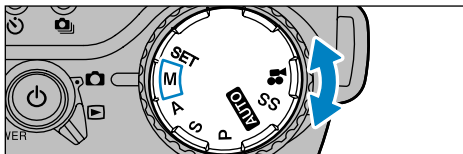
ISO 125	3秒〜1/1000秒
ISO 200	3秒〜1/1000秒
ISO 400	1.6秒〜1/1000秒
ISO 800	1/1.3秒〜1/1000秒

A：絞り値の設定
F2.8〜F11

❗撮影メニューについては、61〜70ページをご参照ください。

撮影モードの制御範囲を超えてしまう場合（極端な露出オーバー・露出アンダーの撮影シーンなど）、画面内の“シャッタースピード”または“絞り値”が「赤色」で表示されます（➡11ページ）。

プログラムシフト

露出値を変えずにシャッタースピード・絞り値の組み合わせを切り換える機能です。プログラムシフト中は、シャッタースピード・絞り値が黄色で表示されます。
プログラムシフトはモードを切り換えるか電源を切ると解除されます。

3

❗撮影の状況に応じて露出補正をしてください（➡53ページ）。

M マニュアル

モードダイヤルを回してセットします。

M マニュアル

シャッタースピードと絞り値を自由に設定できる撮影モードです。

● シャッタースピードの設定　1/3EVステップ

ISO 125	3秒～1/1000秒
ISO 200	3秒～1/1000秒
ISO 400	1.6秒～1/1000秒
ISO 800	1/1.3秒～1/1000秒

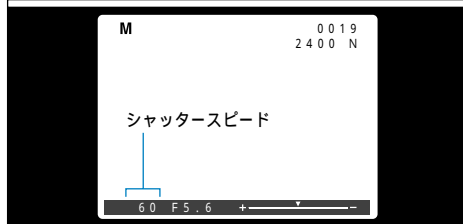
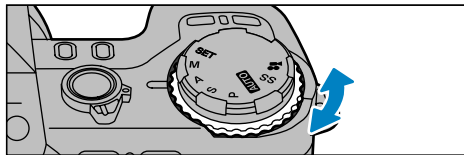
● 絞り値の設定

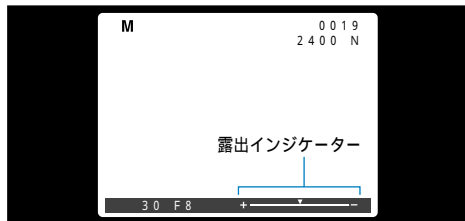
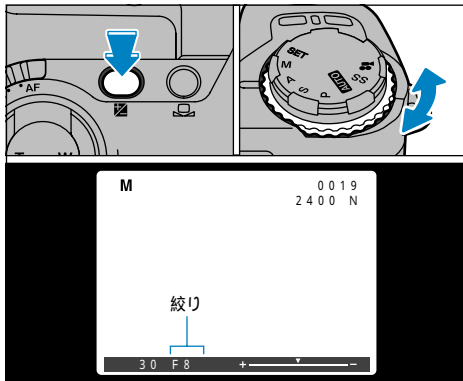
F2.8～F11　1/3EVステップ

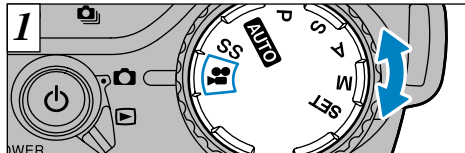
シャッタースピード設定

コマンドダイヤルを回して設定します。

撮影メニューについては、61～70ページをご参照ください。

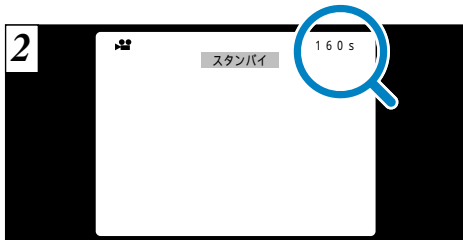
EVについては、110ページをご参照ください。

絞り値設定

“ ”(露出補正) ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して設定します。

モニターの“ 露出インジケーター ”をめやすに露出を決定します。
目印が＋側にふれると露出オーバー（＋が黄色表示）、－側にふれると露出アンダー（－が黄色表示）です。

3

撮影モード ムービー（動画）

モードダイヤルを回してセットします。

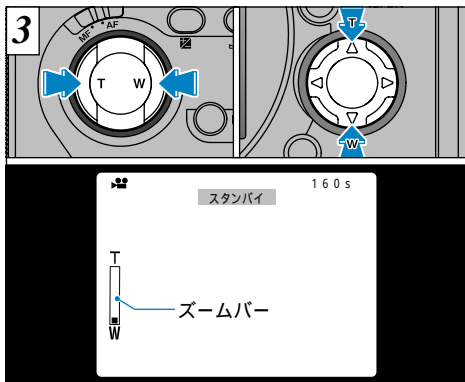
ムービー（動画）

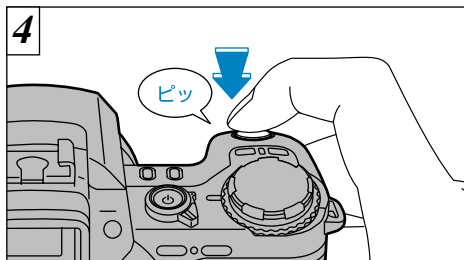
1回の撮影で最長160秒（320×240ピクセル・10フレーム/秒・Motion JPEG（➡110ページ）形式）の音声なしのムービー撮影モードです。

ムービーにすると画面に記録可能時間と“ スタンバイ ”が表示されて撮影可能になります。右上の時間は、撮影開始時の記録可能時間です。

■スマートメディア標準撮影可能時間

スマートメディア容量	MG-4S（4MB）	MG-8S（8MB）	MG-16S（16MB）	MG-32S（32MB）	MG-64S（64MB）
記録可能時間（秒）	約22	約45	約90	約182	約364

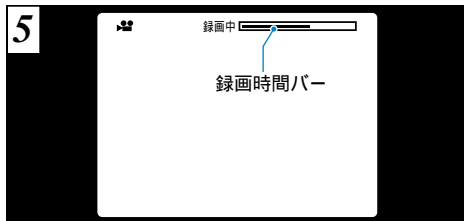
＊スマートメディアをフォーマットした状態の撮影可能時間です。

! スマートメディアの空き容量によっては、1回の撮影時間が短くなることがあります。

ムービー撮影ではレンズが広角側に固定され、デジタルズームのみになります。ズームボタンか十字（▲▼）ボタンでズームできます。画面に“ズームバー”が表示されます。

●デジタルズーム焦点距離
約35mm〜約66mm相当（1.88倍）

シャッターボタンを全押しすると、撮影が開始されます。

3

- シャッターボタンを押し続ける必要はありません。
- ピントは約50cm〜無限遠の固定になります。
- 撮影中はピント、ホワイトバランスは固定ですが、露出はシーンに応じて自動的に変化します。

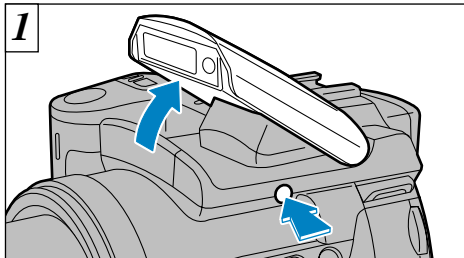
ホワイトバランスはシャッターボタンを全押しすると、自動的に設定されます。

撮影中は画面に“ 録画時間バー ”が表示されます。

撮影中にもう一度シャッターボタンを押すと録画が終わり、スマートメディアへ記録します。

❗“ 録画時間バー ”は、録画時間と残り時間のめやすを表しています。バーがいっぱいになると自動的に録画が終了し、スマートメディアに記録されます。

❗約１６０秒の動画（約２４ＭＢ）のスマートメディアへの書き込み時間は、約２２秒です。

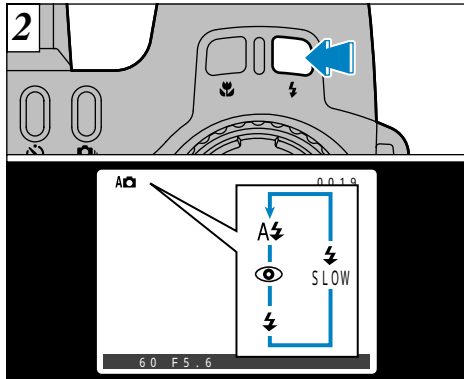
❗撮影開始後、すぐに撮影を終えても約3秒は録画されます。

1

ストロボポップアップボタンを押してストロボをセットします。

●ストロボ撮影可能距離（AUTO時）
広角側：0.3m〜4.5m
望遠側：0.9m〜4m
（内蔵ストロボガイドナンバー　12（ISO 200時））

! 撮影モード“AUTO”の場合、オートストロボの使用をおすすめします。

! ストロボをポップアップしたときや、ストロボ撮影をした場合、充電するために映像が消えて黒い画面になる場合があります。このときインジケーターランプが橙色の点滅をします。

2

“ ”ボタンを押してストロボの設定を選びます。
“ ”ボタンを押すたびに、ストロボの設定（A・ ・ ・ SLOW・ SLOW・ ）が変わります。

! ストロボの設定は撮影モードにより制限されます（➡37ページ）。

! 外部ストロボの使用については、68ページをご参照ください。

3

ストロボ撮影

A⚡ オートストロボ

一般的な撮影に使用します。撮影状況に応じて、ストロボが自動的に発光します。

👁 赤目軽減ストロボ

暗いところでひとみを自然に撮りたいときに使用します。
撮影前にストロボがプレ発光し、次に撮影のためのストロボが発光します。

◆赤目現象について◆

人物を暗いところでストロボ撮影した場合、目が赤く写ることがあります。これは、ストロボの光が目の中で反射することにより起こる現象です。赤目を起こりにくくするために、赤目軽減ストロボを積極的にご利用ください。赤目軽減ストロボを使用するとともに、

- 撮られる人にカメラの方に視線を向けてもらう
- なるべく近づいて撮影する

などするとより効果的です。

強制発光ストロボ

窓際や木陰などの逆光撮影、蛍光灯などの照明の下で適正な色に撮りたいときに使用します。明るいところでもストロボ撮影が行われます。

スローシンクロ

スローシャッターでストロボ発光します。夜景と人物をきれいに撮影できます。

赤目軽減＋スローシンクロ

赤目軽減のスローシンクロ撮影です。

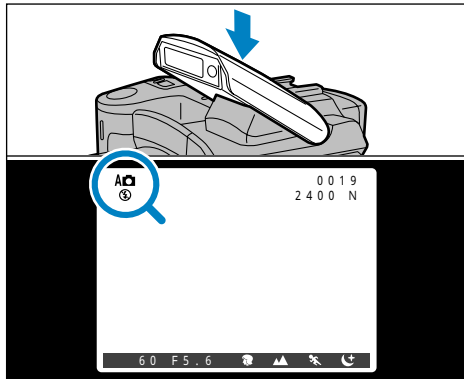
- 明るい撮影シーンでは露出オーバーになることがあります。
- スローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

背景の夜景をより明るく撮りたい場合は“SS”モードの“ ”(夜景)の使用をおすすめします**(➡39ページ)。**

3

ストロボ発光禁止

**ストロボを閉めると発光禁止になります。
室内照明を利用しての撮影、舞台や室内競技などのストロボ光が届かない距離での撮影などに使用します。この場合、オートホワイトバランス（➡110ページ）が働き、周囲光の雰囲気を残しつつ自然な色に撮影できます。**

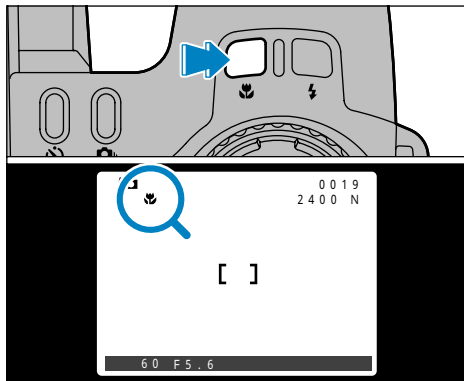
❗暗い場所でストロボ発光禁止で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。
❗手ブレ警告については、24、118ページをご参照ください。

ストロボを閉めて発光禁止にします。下記モードではストロボをポップアップしていても、画面に“ ”が表示され、ストロボ撮影できません。

●ストロボ撮影できないモード
- **モード（➡39ページ）**
- **モード（➡44ページ）**
- **モード（➡57ページ）**
- **モード（➡66ページ）**

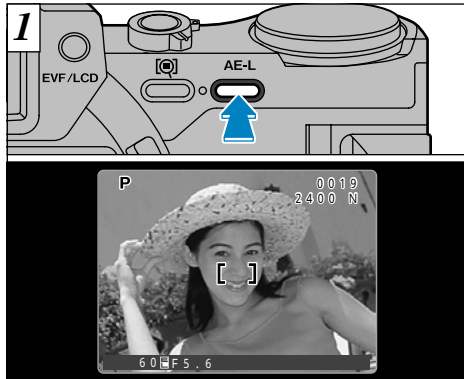
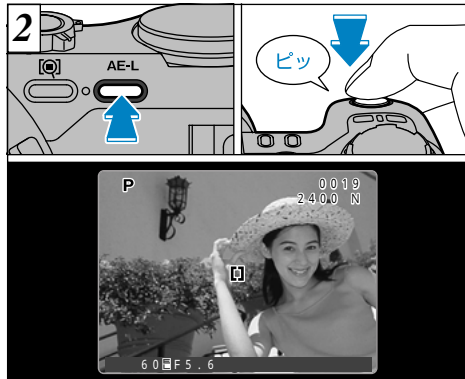
マクロ（近距離）撮影

“ AUTO ・P・S・A・M ”の撮影モードで設定できます。
マクロを設定すると、近距離撮影ができます。

●撮影可能距離：約10cm～約80cm

“ ”ボタンを押すと画面に“ ”が表示され、マクロ撮影できます。もう一度“ ”ボタンを押すと解除されます。

- 焦点距離は約35mm～約80mm（35mmカメラ換算）の光学ズームになります。デジタルズームの使用も可能です（➡56ページ）。
- 撮影の状況に応じてストロボの設定をしてください（➡47ページ）。ただし、ストロボ撮影可能距離は30cm～80cmになります。
- ストロボが明るすぎる場合は、ストロボの明るさ補正を行ってください（➡62ページ）
- 暗い場所で撮影する場合は、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

- マクロ撮影は、次のとき自動的に解除されます。
  - 撮影モードを“ SS・ ”に切り換えたとき。
  - 電源が切れたとき。

AE-L AEロック

“ AUTO・SS・P・S・A ”の撮影モードで設定できます。
特定の被写体に露出を固定して撮影したいときに使用します。
被写体を画面中央に大きくとらえ、“ AE-L ”ボタンを押します。
画面に“ ”マークが表示されます。

“ AE-L ”ボタンを押している間、露出が固定されます。ピントを合わせ構図をし直して撮影します。

露出補正

"P・S・A"の撮影モードで設定できます。
被写体と背景のコントラスト（明暗の差）がきわめて大きい場合など、適正な明るさ（露出）が得られないときに使用します。

! 次のような状態では、無効になります。
- オートまたは赤目軽減でストロボが発光したとき
- 強制発光で撮影シーンが暗いとき

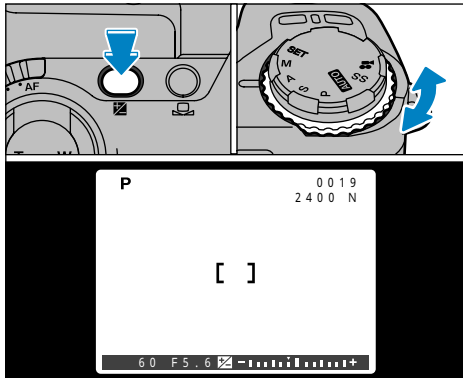
◆次のような被写体のとき効果があります◆

＋（プラス）補正のめやす

- 白っぽい紙に黒い文字の印刷物の複写：＋4目盛（＋1.3EV）
- 逆光の人物撮影：＋2〜4目盛（＋0.7〜＋1.3EV）
- スキー場などの明るい場面や反射の強い場合：＋3目盛（＋1EV）
- 画面内を空の部分が大きく占める場合：＋3目盛（＋1EV）

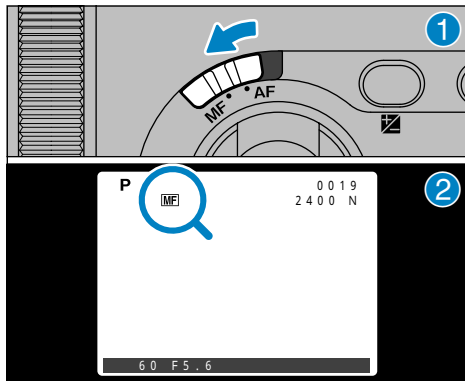
ー（マイナス）補正のめやす

- スポットライトを浴びた人物、特にバックが暗い場合：ー2目盛（ー0.7EV）
- 黒っぽい紙に白い文字の印刷物の複写：ー2目盛（ー0.7EV）
- 常緑樹または色の濃い葉など反射率が低い場合：ー2目盛（ー0.7EV）

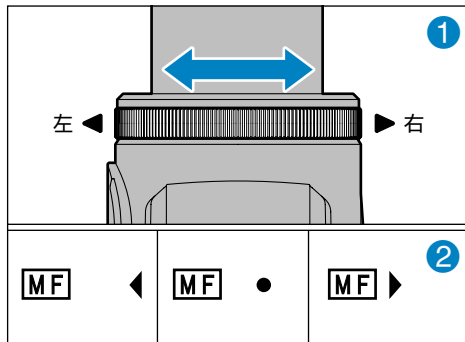
! EVについては110ページをご参照ください。

"⊠"ボタンを押しながら、コマンドダイヤルを回して設定します。画面に"⊠"マークと、"露出補正インジケーター"が表示されます。

●補正範囲：ー2〜＋2EV、1/3EVステップ
1目盛：1/3EV

モード切り換え・電源OFFでも保持されます（"⊠"マーク点灯）。必要のないときは、設定値を"0"にしてください。

マニュアルフォーカス

“ 🎥 ”を除く撮影モードで使用できます。
AFでピントが合いにくい場合や、ピントを固定して撮影したいときに使用します。

❶フォーカスモード切り換えスイッチを“ MF ”側にスライドします。

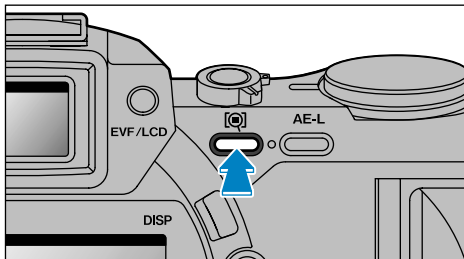
❷画面に“ MF ”が表示されます。

❶フォーカスリングを回してピント合わせをします。

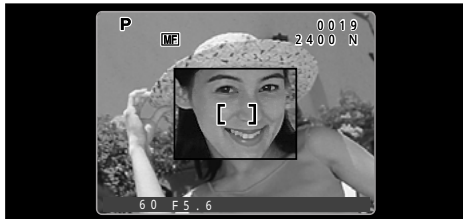
❷画面にフォーカスインジケーターが表示されるので、“ ● ”が表示されるように調節します。

■フォーカスインジケーターについて

ピント合わせをある程度行う（合焦位置に近づく）とマークが表示されるので、マークに従ってピントを合わせます。

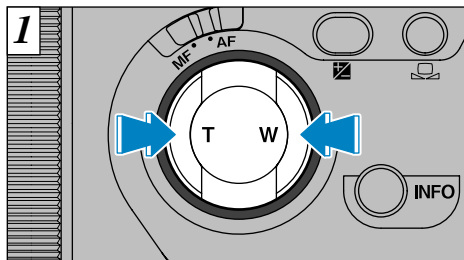
●	ピントが合っています
▶	ピントが近距離です。フォーカスリングを右に回します。
◀	ピントが遠距離です。フォーカスリングを左に回します。

[⊡] フォーカス確認ボタン

マニュアルフォーカス時にピント確認がしにくい場合に使用します。

“ [⊡] (フォーカス確認) ”ボタンを押します。

“ [⊡] ”ボタンを押している間、画面中央部が拡大表示されます。そのままピント合わせが可能です。

! ピクセル設定が640×480で、デジタルズーム（テレ端）使用時は拡大表示されません。

◆マニュアルフォーカスを使いこなすには◆

- カメラが動いてしまうとピントがずれてしまうため、三脚を使用します。
- 素早くピントを合わせるには、ほぼ同じ距離のものにAFでピント合わせをし、それからマニュアルフォーカスを使用します。

デジタルズーム

ピクセル（画像サイズ）設定が“2400×1800”以外ではデジタルズームできます。

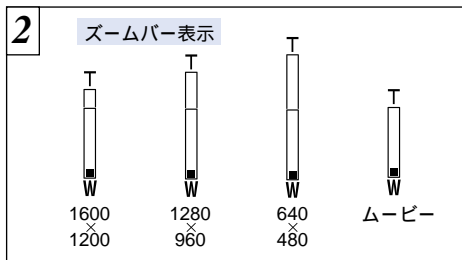
●デジタルズームにする
光学ズーム（テレ端）に続いてもう一度、“T側”を押します。

●光学ズームに戻る
デジタルズーム（ワイド端）に続いてもう一度、“W側”を押します。

2400×1800では、デジタルズームはできません。

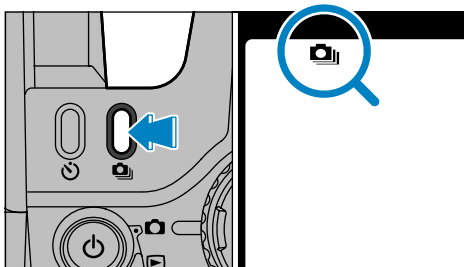
デジタルズームにすると、液晶モニターの映像がなめらかに変化しなくなります。

光学ズームは約35mm～約210mm（35mmカメラ換算）です。

ピクセル（画像サイズ）設定の変更（➡97ページ）。

画面に“ズームバー”が表示されます。画面の映像が確認しにくい場合は、シャッターボタンを半押ししてください。

●デジタルズーム焦点距離

1600×1200	：約210mm～約315mm相当（1.5倍）
1280×960	：約210mm～約393mm相当（1.875倍）
640×480	：約210mm～約787mm相当（3.75倍）
ムービー	：約35mm～約66mm相当（1.875倍）

連写

“ ”を除く撮影モードで設定できます。
連写を設定すると、最短約0.2秒間隔で最大5コマ連写できます。
“ ”ボタンを押すと画面に“ ”が表示され、設定されます。もう一度“ ”ボタンを押すと解除されます。

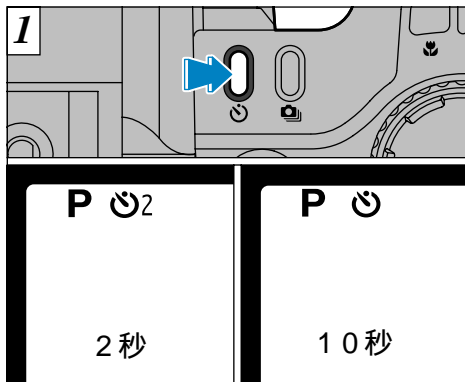
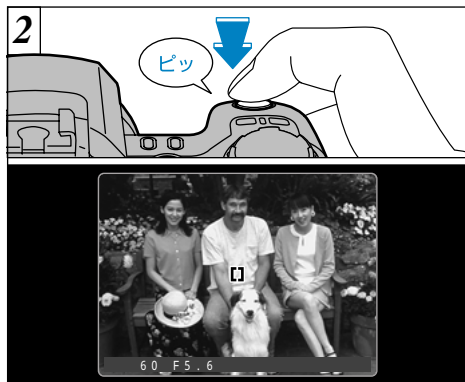
プレビュー表示が“ ON ”の場合（➡98ページ）、撮影するとプレビュー画面が表示されます。画面の左から時系列順に画像が並びます。記録する場合は“ MENU/OK ”ボタンを押します。記録しない場合は、“ BACK ”ボタンを押します。

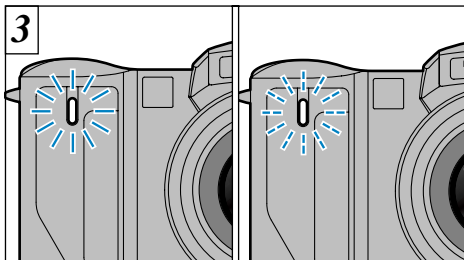
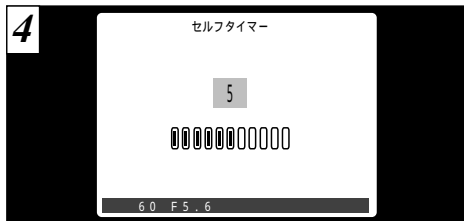
3

ストロボ撮影はできません。
どのピクセル/クオリティー設定でも連写速度は変わりません。

連写設定時、オートブラケティング（➡66ページ）は無効になります。

ピント、露出は1コマ目の撮影時に決定され、途中で変化しません。

⏲ セルフタイマー撮影

“ 🎥 ”を除く撮影モードで設定できます。
“ ⏲ ”ボタンを押すたびに、2秒→10秒→OFFの順に設定が変わります。

被写体にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを押すとAFフレーム内に見えるものにピントが合い、セルフタイマーがスタートします。

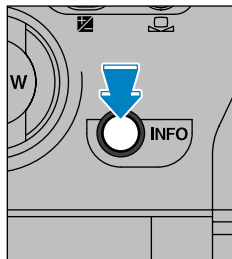
! AF/AEロック撮影も可能です（➡26ページ）。
! カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。ピンボケになったり、適正な明るさ（露出）にならないことがあります。

セルフタイマーランプが点灯したのち点滅に変わり、撮影されます。

撮影されるまでの間、画面にカウントダウン表示されます。
セルフタイマーは撮影ごとに自動的に解除されます。

3

■セルフタイマーランプ表示

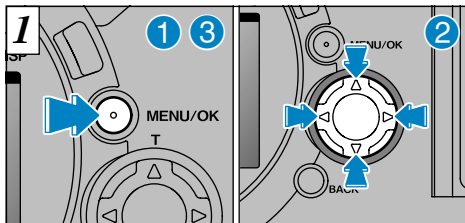
⏱2	2秒間点灯
⏱	5秒間点灯→5秒間点滅

❗スタートしたセルフタイマー撮影は、“ BACK ”ボタンを押すと解除できます。

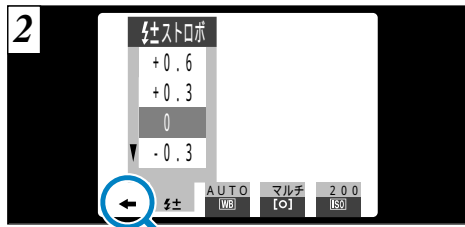
撮影インフォメーション

撮影中に現在の設定値がわからなくなった場合、INFOボタンを押している間のみ確認できます。

“AUTO・SS・ ”ではインフォメーション表示されません。

確認のみで設定の変更はできません。

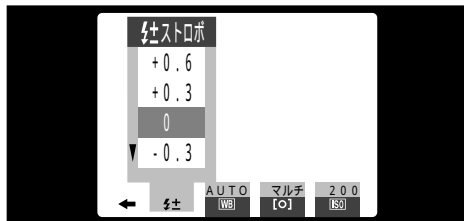
撮影メニューの操作

❶"MENU/OK"ボタンを押してメニューを表示します。

❷"◀▶"でメニューを選択します。"▲▼"で設定を変更します。

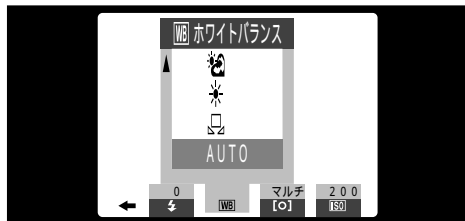
❸"MENU/OK"ボタンを押して決定します。

メニュー端の"⬅➡"側で、"◀▶"を押すとメニューのページを切り換えできます。

! AUTO・SS・🎥の撮影モードでは、メニューは設定できません。
詳しくは、37ページを参照してください。

3

撮影メニュー ⚡± ストロボの明るさ補正

“P・S・A・M”の撮影モードで設定できます。
ストロボ光が届かない（うす暗くなる）場合や、近距離でストロボ撮影する場合など、適正な明るさにならないときに使用します。

●補正範囲は±2段（－0.6～＋0.6EV、約0.3EVステップ）です。補正は内蔵ストロボのみ有効です。EVについては110ページをご参照ください。

撮影メニュー WB ホワイトバランス

“P・S・A・M”の撮影モードで設定できます。
撮影時の環境・照明光に合わせ、ホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。
AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しいホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。
ホワイトバランスについては110ページをご参照ください。

AUTO ：自動調整
（光源の雰囲気を残した撮影）
：カスタムホワイトバランス
：晴れた屋外での撮影
：日陰での撮影
1 ：昼光色蛍光灯下での撮影
2 ：昼白色蛍光灯下での撮影
3 ：白色蛍光灯下での撮影
：電球、白熱灯下での撮影

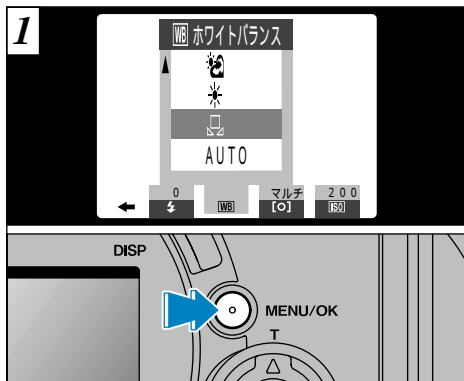
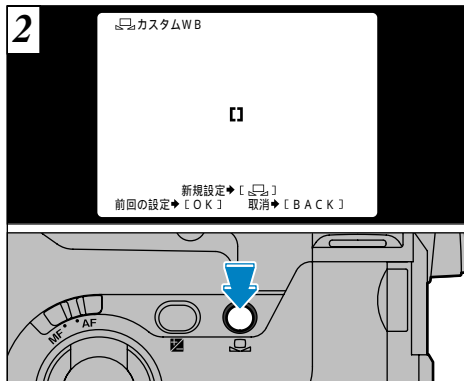
＊ストロボ発光時は、ホワイトバランス設定（カスタムホワイトバランスを除く）は無効になりますので、意図した撮影の場合ストロボを押し下げて発光禁止（➡50ページ）にしてください。

◆カスタムホワイトバランスについて◆

光源に対して正確にホワイトバランスを合わせたいときに使用します。
特殊な効果をだしたいときにも使用できます。

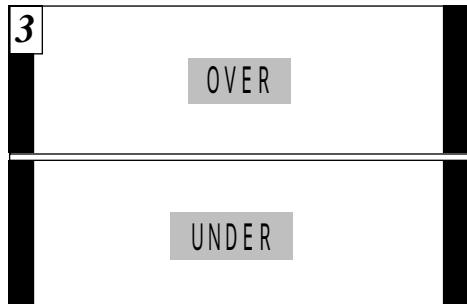
カスタムホワイトバランスの設定

“ ”カスタムホワイトバランスを選びます。
“ MENU/OK ”ボタンを押します。

3

WB ホワイトバランス

設定したい光源下で、白い紙などを画面いっぱいに表示します。
ボタンを押すと測定され、ホワイトバランスが設定されます。

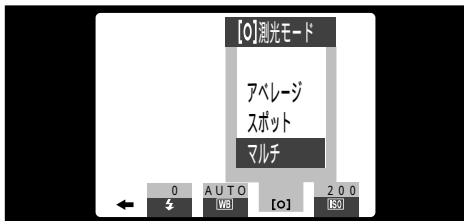
画面にホワイトバランスは反映されません。

前回設定したホワイトバランスを使用するには、ボタンを押さずに“MENU/OK”ボタンを押してください。

“OVER” “UNDER”が表示された場合は、適正な露出でホワイトバランスが測定されていません。もう一度、設定をし直してください。

撮影後、画像の色味（ホワイトバランス）を確認することをおすすめします。
- ●セットアップでプレビュー表示（➡98ページ）をONにする。
- ●モードレバーを再生にする（➡30ページ）。

◆使用例◆

白い紙の代わりに色紙を使用すると撮影画像のホワイトバランスを意図的に変えることができます。

撮影メニュー [⦾] 測光モード

“P・S・A・M”の撮影モードで設定できます。
被写体と背景の明るさが大きく異なる撮影シーンでマルチで思いどおり測光されない場合に使用します。

●アベレージ：画面全体を平均して測光します。
●スポット　：画面中央部の露出が最適になるように測光します。
●マルチ　　：自動で場面を判別し、露出が最適になるように測光します。

◆次のような被写体のとき効果があります◆

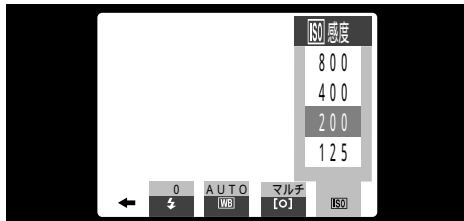
● アベレージ
構図や被写体により露出が変化しにくい特長があります。白や黒などの服を着た人物や、風景の撮影などに有効です。

● スポット
明暗差の大きい被写体で、ねらったものに正確に露出を合わせたいときに有効です。

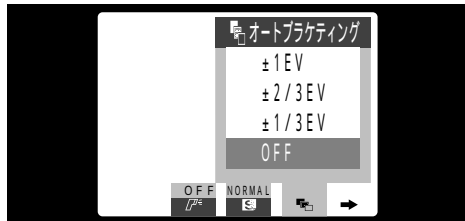
● マルチ
シーン自動認識により被写体を分析し、はば広い条件で適正な露出が得られます。通常はマルチの使用をおすすめします。

3

! “AUTO・SS・🎥”時はマルチに固定されています。

撮影メニュー ISO 感度

“P・S・A・M”の撮影モードで設定できます。
室内の撮影などで、ストロボを使わずに明るく撮影したい場合や、高速シャッターを切りたいとき（手ブレ防止など）に使用します。

●設定値：125・200・400・800

撮影メニュー オートブラケティング

“P・S・A・M”の撮影モードで設定できます。
同じ画像を露出を変えて撮影したいときに使用します。自動的に設定値きざみで適正・オーバー・アンダーの露出で3枚連続して撮影します。

●設定値は3種類（±1/3・±2/3・±1EV）です。

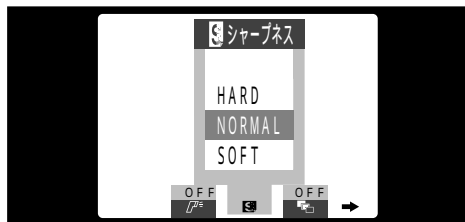
! ストロボ撮影はできません。
! 必ず3枚の画像が撮影されます。ただし、スマートメディアに3枚分の空き容量がない場合は撮影できません。

連写（➡57ページ）設定時はオートブラケティングは無効になります。

プレビュー表示が“ON”の場合（➡98ページ）、撮影するとプレビュー画面が表示されます。Ⓐが適正、Ⓑがオーバー、Ⓒがアンダーです。記録する場合は“MENU/OK”ボタンを押します。記録しない場合は“BACK”ボタンを押します。

❗スマートメディアに記録中は、液晶モニターに“カード保存中”と表示されます。

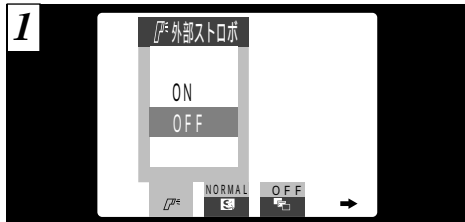
❗データ記録時間は、2400×1800ピクセル・NORMALの画像で約11秒です。

撮影メニュー シャープネス

“P・S・A・M”の撮影モードで設定できます。
輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調整するときに使用します。

●3段階切り換えです。

HARD：輪郭を強調します。
建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。

NORMAL：通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。

SOFT：輪郭をソフトにします。
人物などソフトにしたい撮影に最適です。

外部ストロボ

"P・S・A・M"の撮影モードで設定できます。
外部ストロボを使用するときに"ON"にします。

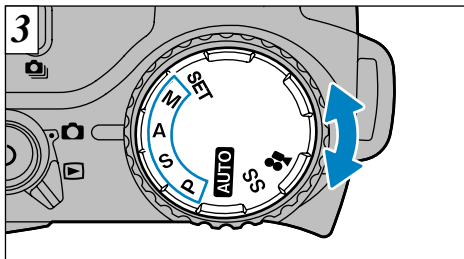
●同調速度：　～1/1000秒

❶内蔵ストロボを閉めます。
❷外部ストロボをカメラのホットシューに取り付けます。

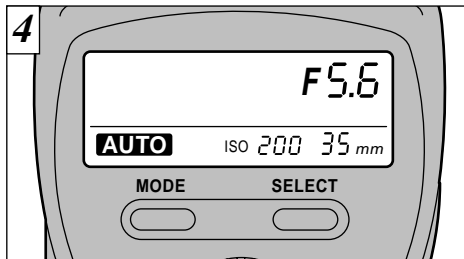
ホワイトバランス（➡62ページ）をAUTO、またはカスタムホワイトバランス（➡70ページ）に設定します。

◆使用可能なストロボ◆

次の3条件を同時に満たすもの
- 絞り値設定が可能
- 外部調光が可能
- ISO感度設定が可能

内蔵/外部ストロボは、同時に使用できません。

“ P・S・A ”(➡40ページ) が“ M ”(➡42ページ) に設定します。ただし、“ A ”が“ M ”での使用をお勧めします。

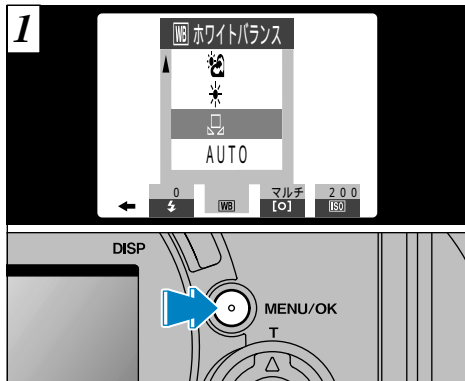
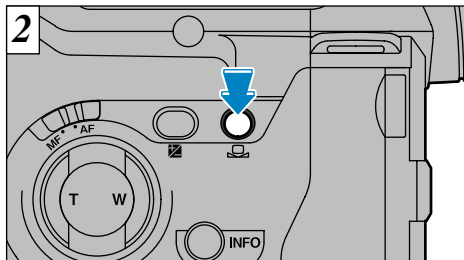
! 連写 (➡57ページ)・オートブラケティング (➡66ページ) を設定時はストロボ撮影できません。

外部ストロボ使用時は、絞り値を固定します。

外部ストロボの設定

外部ストロボの設定は、ストロボの使用説明書を参照して次の項目を設定してください。

- カメラの絞り値と、設定を合わせる。
  “ P・S ”の撮影モードでは、カメラが測定した絞り値に合わせてください。
- カメラのISO感度 (➡66ページ) と、設定を合わせる。
- 外部調光モードに設定する (TTLモードは使用できません)。

3

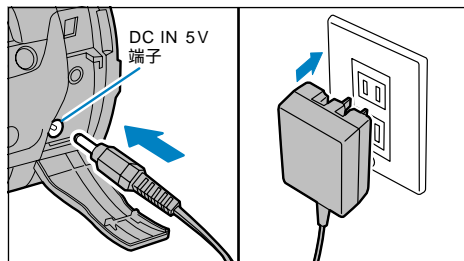
ホワイトバランスが合わない場合

ホワイトバランスを外部ストロボに合わせます。撮影メニューの“ WB ”(➡62ページ)で“ ”カスタムホワイトバランスを選びます。
“ MENU/OK ”ボタンを押します。

白い紙などを画面いっぱいに表示します。“ ”ボタンを押すとストロボが発光し設定されます。

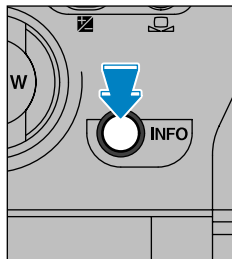
撮影後、画像の色味(ホワイトバランス)を確認することをおすすめします。
●セットアップでプレビュー表示(➡98ページ)をONにする。
●モードレバーを再生にする(➡30ページ)。

応用編 再生では

応用編 再生では、モードレバーを“▶”に合わせた状態で行えるいろいろな機能をご紹介します。

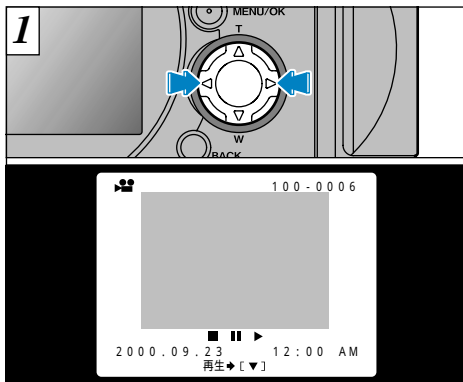
■再生モードメニュー一覧

再生している画像	設定可能メニュー
▶ 静止画(➡30ページ)	消去(1コマ・全コマ・フォーマット)(➡34、75ページ) オートプレイ(自動再生)(➡77ページ) リサイズ(縮小) (➡78ページ) プロテクト(消去防止)(➡80ページ) DPOF(Digital Print Order Format)(➡84ページ)
ムービー(➡73ページ)	消去(1コマ・全コマ・フォーマット)(➡34、75ページ) オートプレイ(自動再生)(➡77ページ) インデックス作成(➡93ページ) プロテクト(消去防止)(➡80ページ)

コンセントが近くにある場合は、静止画やムービーを再生している最中に電源が切れないように、ACパワーアダプター AC-5VN/AC-5VHでの使用をおすすめします(➡14ページ)。

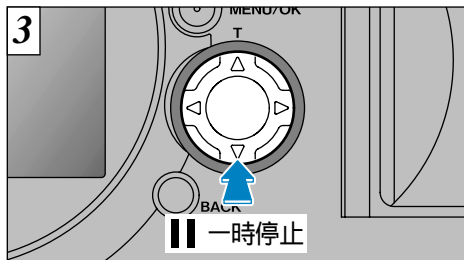
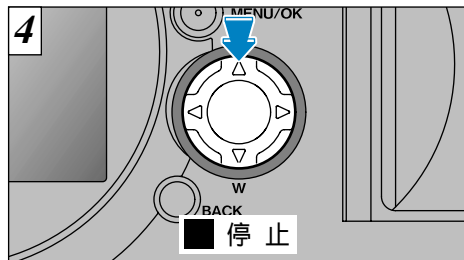
再生インフォメーション

撮影時の情報を確認することができます。
“INFO”ボタンを押している間のみ確認できます。

マルチ再生中(➡33ページ)は使用できません。

ムービー（動画）再生

“◀▶”でムービーファイルを選びます。

再生する場合は“▼”を押します。再生すると、再生中のバー表示と時間が表示されます。

マルチ再生や画像の早送りでも、ムービーはひと回り小さく表示されます。

- 再生するときにデータを読み込むため、一時的に黒い画面になります。
- 再生が終わると自動的に停止し、最初の画面に戻ります。
- 高輝度の被写体を撮影した場合、再生時にタテに白いスジが入ることがありますが故障ではありません。

ムービー再生を一時停止するには“▼”を押します。一時停止を解除するにはもう一度“▼”を押します。

再生をやめるには“▲”を押します。

◆再生できる動画データについて◆

本機で記録した動画データ、または弊社製デジタルカメラで3.3V仕様のスマートメディアに記録した動画データが再生できます。ただし音声の再生はできません。

1コマ・全コマ消去/フォーマット

1コマ消去

選んだ静止画やムービーだけを消去します。

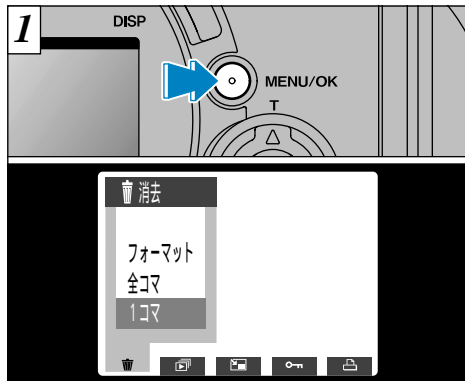
! プロテクトした静止画やムービー(➡80、82ページ)は消せません。

全コマ消去

プロテクトした静止画やムービー以外をすべて消去します。

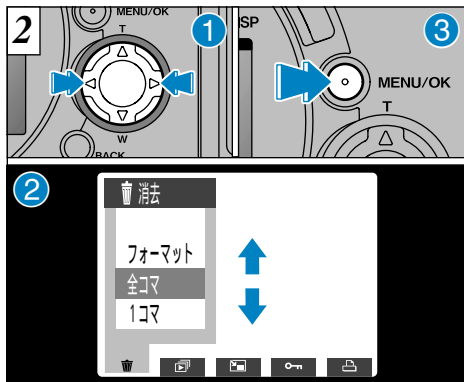
フォーマット

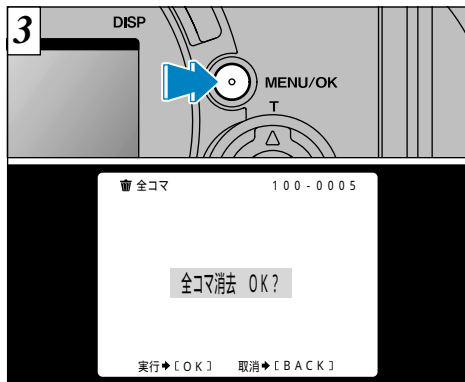
すべてのデータを消去してこのカメラ用に作り直します(スマートメディアの初期化)。

! プロテクトした静止画やムービーも消えます。

! “ ❗CARD ERROR ”“ ❗CARD NOT INITIALIZED ”が表示された場合は、まずスマートメディアの接触面(金色の部分)を乾いた柔らかい布などで軽くふいてから、再度セットしてください。それでも表示される場合は、フォーマットをしてください。

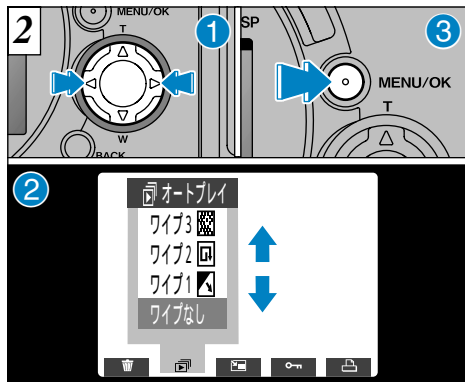
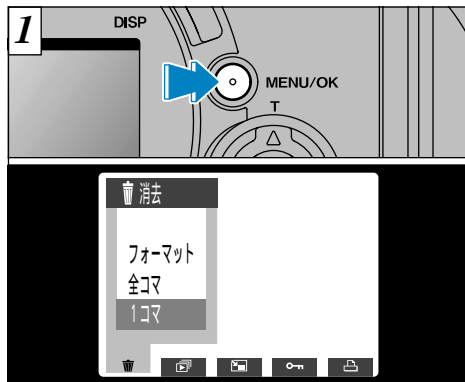
“ MENU/OK ”ボタンを押してメニューを表示します。

! メニューを終了するには“ BACK ”ボタンを押してください。

🗑 1コマ・全コマ消去/フォーマット

❶“ ◀ ▶ ”で“ 🗑消去 ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して“ 1コマ ”か“ 全コマ ”か“ フォーマット ”を選びます。
❸“ MENU/OK ”ボタンを押します。

フォーマットするとすべてのデータが消去されます。

実行を確認する画面が表示されます。
全コマ消去かフォーマットでは、OKなら“ MENU/OK ”ボタンを押します。
1コマ消去では画像を“ ◀ ▶ ”で選んでから、“ MENU/OK ”ボタンを押します。

❗ やめたい場合は、“ BACK ”ボタンを押してください。
❗“ DPOF指定されています全コマ消去しますか？ ”が表示された場合は、DPOF指定されています。“ MENU/OK ”ボタンを押すと画像を消去します。

オートプレイ（自動再生）

“ MENU/OK ”ボタンを押してメニューを表示します。

❗オートプレイ中はオートパワーオフしません。
❗ムービーは自動的に再生が始まります。再生が終わると次のコマに進みます。

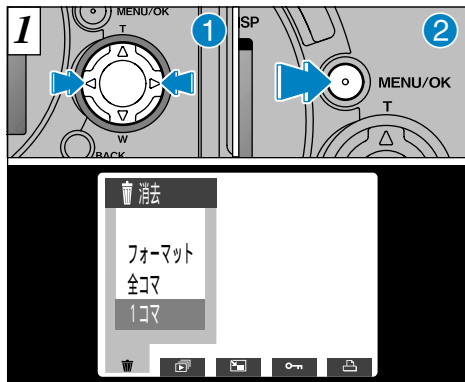
◆表示方法◆
ワイプ1……斜め
ワイプ2……うず巻き
ワイプ3……モザイク

❶“ ◀ ▶ ”で“ オートプレイ ”を選びます。
❷“ ▲▼ ”を押して3種類の表示方法（ワイプ）から選びます。
❸“ MENU/OK ”ボタンを押します。画像が自動的にコマ送りされて再生されます。

❗“ DISP ”ボタンを1回押すと、画面に“ ”と再生コマNo.が表示されます。
❗途中で止めたい場合は、“ BACK ”ボタンを押してください。

4

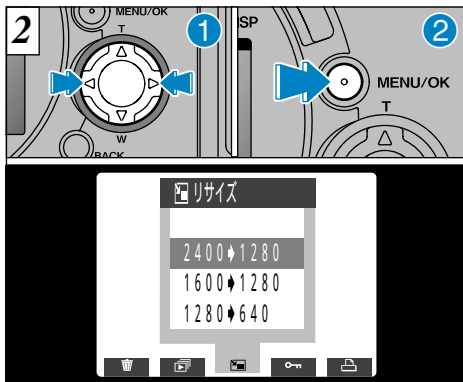
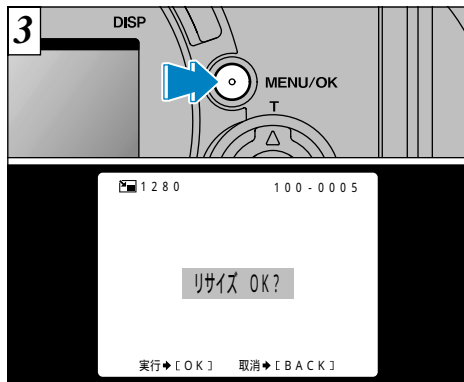
再生メニュー リサイズ(縮小)

リサイズすると、データ容量が小さくなったファイルを新しく作成します。
画像サイズが“2400×1800・1600×1200・1280×960”の静止画のみリサイズできます。
それ以外の場合、リサイズのメニューは選択できません。

◆こんなときに使います◆

E-Mailに画像を添付したいとき、リサイズすると便利です。

リサイズ後のクオリティー(➡97ページ)はすべてNORMALになります。

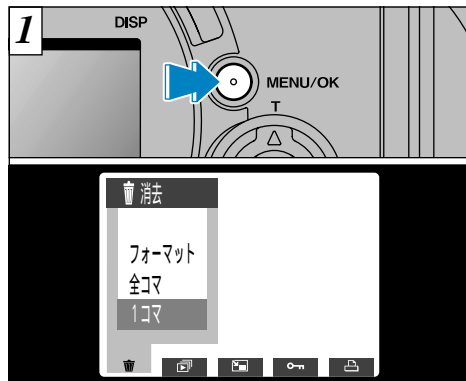
❶“◀ ▶”でリサイズしたい画像を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

! ムービーはリサイズできません。

❶“ ◀ ▶ ”で“ リサイズ ”を選びます。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押します。

実行を確認する画面が表示されます。OKなら“ MENU/OK ”ボタンを押します。画像は別ファイルで記録されます。

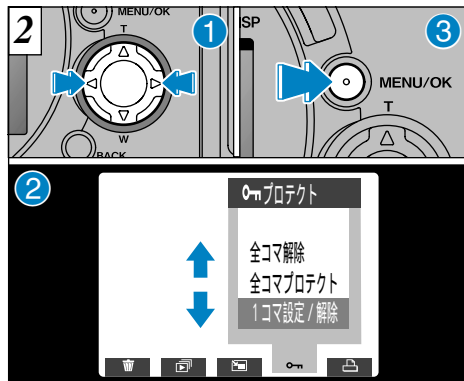
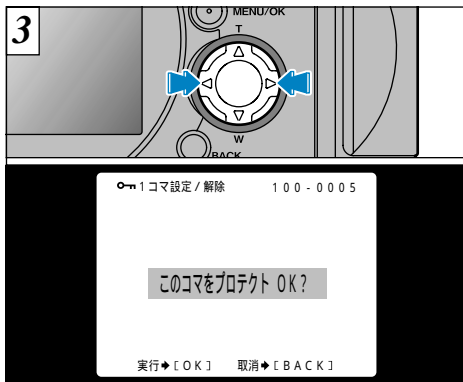
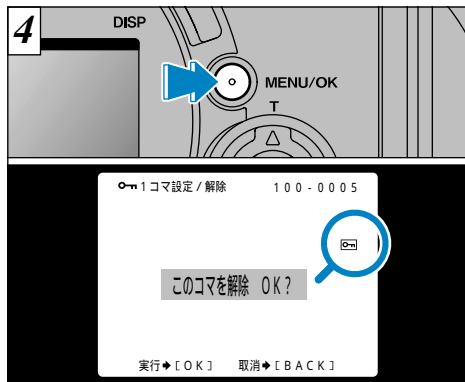
4

❗“ CARD FULL ”または“ PROTECTED CARD ”と表示された場合は作動しません。不要な画像を消去するか、プロテクトされていないスマートメディアを使用してください。

❗リサイズしない場合は“ BACK ”ボタンを押し、メニューに戻ります。メニューを終了するには、もう一度“ BACK ”ボタンを押してください。

再生メニュー O┳ 1コマプロテクト設定/解除

"MENU/OK"ボタンを押すとメニューが表示されます。

❗ 画像を選ぶときはマルチ再生（➡33ページ）すると便利です。

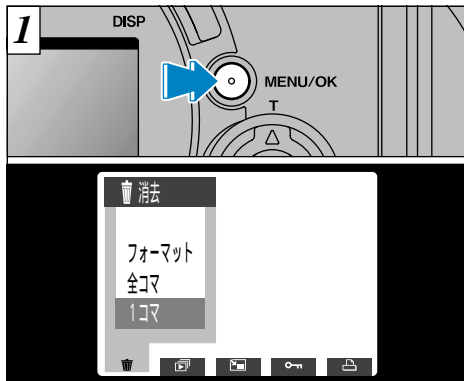
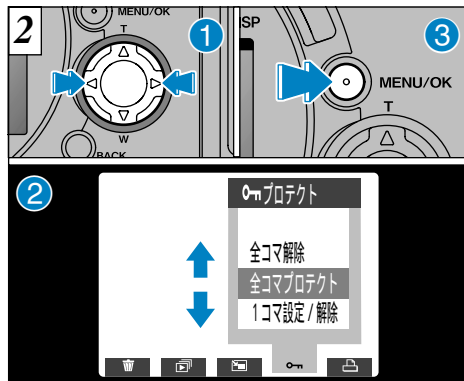
プロテクトとは、画像を誤って消去しないように設定することです。ただし"フォーマット"するとすべての画像が消去されます（➡75ページ）。

❶"◀ ▶"で"O┳ プロテクト"を選びます。
❷"▲▼"を押して"1コマ設定/解除"を選びます。
❸"MENU/OK"ボタンを押します。

"◀▶"でプロテクトしたい画像を選びます。

"MENU/OK"ボタンを押すと画像がプロテクトされ、右端に" "マークが表示されます。
プロテクトを解除するには、もう一度"MENU/OK"ボタンを押します。

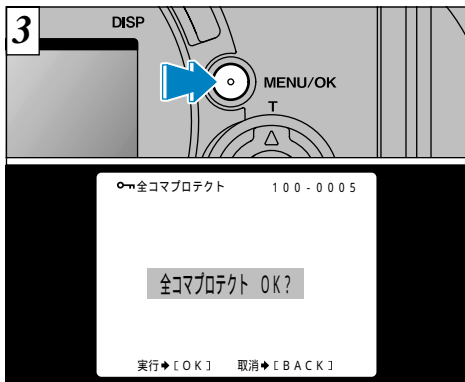
❗ ムービーは、撮影された単位（ファイル）ごとにプロテクトされます。

❗ プロテクト操作を終了するには"BACK"ボタンを押し、メニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度"BACK"ボタンを押してください。

プロテクトを続けるには、3からの操作を繰り返します。

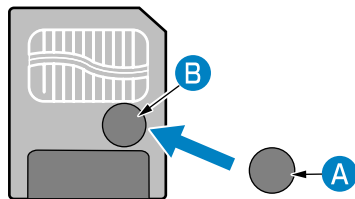
4

O-π 全コマプロテクト設定/解除

"MENU/OK"ボタンを押すとメニューが表示されます。

❶"◀ ▶"で"O-π プロテクト"を選びます。
❷"▲▼"を押して"全コマプロテクト"か"全コマ解除"を選びます。
❸"MENU/OK"ボタンを押します。

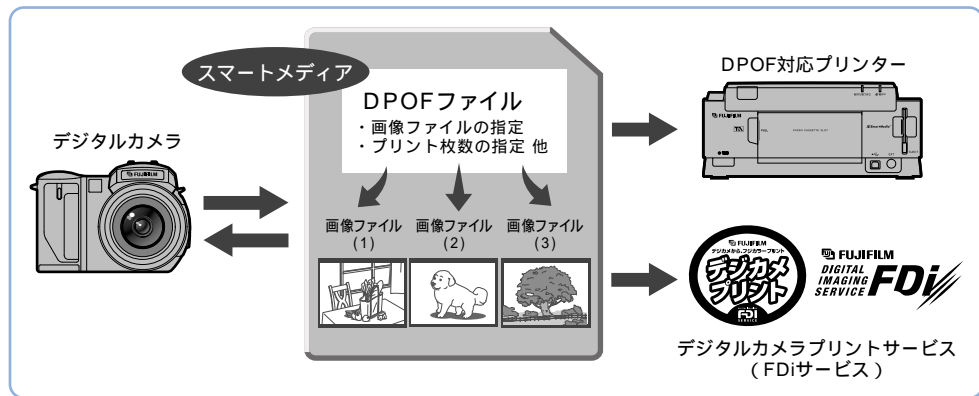
プロテクトされていても"フォーマット"するとすべての画像が消去されます(➡75ページ)。

実行を確認する画面が表示されます。OKなら“ MENU/OK ”ボタンを押します。

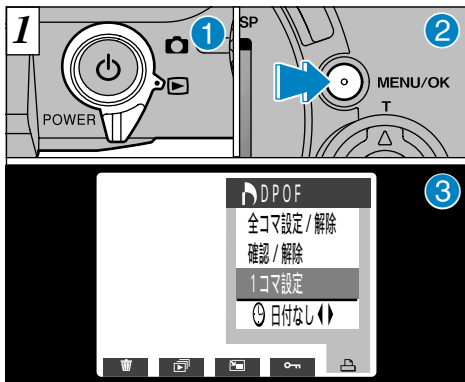
! プロテクト操作を終了するには“ BACK ”ボタンを押し、メニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度“ BACK ”ボタンを押してください。

スマートメディア™の誤記録防止について

ライトプロテクトシールをはると、画像の記録/消去・フォーマットができません。シールをはがすと通常どおり使用できます。

*必ず付属のライトプロテクトシールⒶを、ライトプロテクトエリア内Ⓑに、はみ出さないようにしっかりとはってください。はがしたシールの再利用はできません。
*シールの端で手を切らないようにご注意ください。
*シールが汚れていると、誤記録防止されないことがあります。

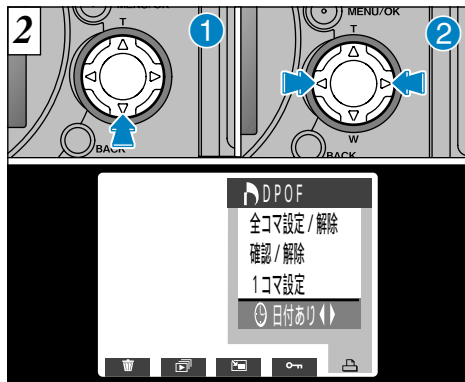
DPOFについて

DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数などの指定情報をスマートメディアなどに記録するときの形式です。

- DPOF対応デジタルカメラ（本機）では上記の情報をカメラの操作でスマートメディアに記録することができます。
- DPOF情報を記録したスマートメディアを、フジフイルム デジタルカメラプリントサービス（FDiサービス）取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。
- DPOF対応プリンターでは、DPOF情報があれば、指定コマ（画像ファイル）を指定枚数だけ自動的にプリントできます。

日付設定

プリントに撮影した日付を入れるか入れないかを選べる機能です。

❶モードレバーを“ ▶ ”に合わせます。

❷“ MENU/OK ”ボタンを押してメニューを表示します。

❸“ ▶ ”を押して“ DPOF ”を選びます。

❶“ ▼ ”で“ 日付 ”を選びます。

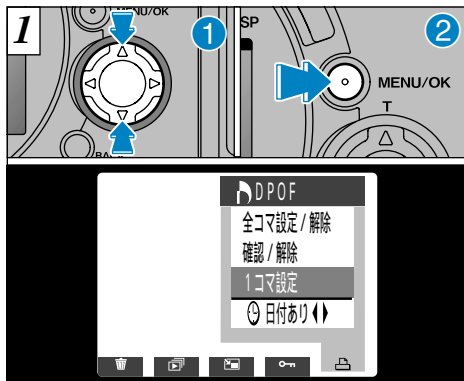
❷“ ◀ ▶ ”を押すと、“ 日付あり ”か“ 日付なし ”が設定できます。その後、設定を変更するまですべてに有効です。

! ムービーはDPOF指定できません。

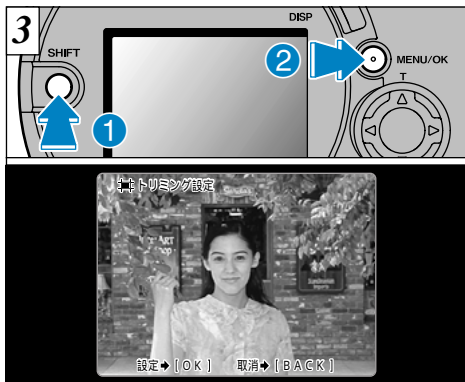
! 他の設定の前に、必ず日付あり/なしの設定を行ってください。

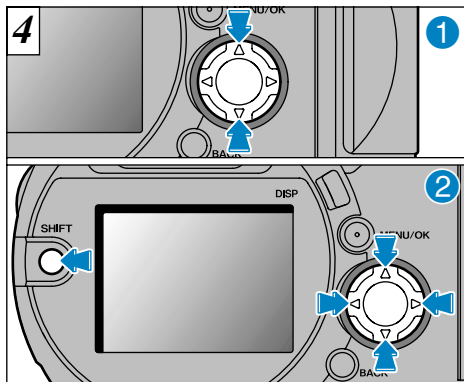
1コマ設定

❶“▲▼”で“1コマ設定”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。

❶“◀▶”で設定するコマを表示させます。
❷“▲▼”でプリント枚数を指定します。

トリミング設定をしない場合は6へ(➡88ページ)。

! 設定の前に、必ず日付あり/なしを設定してください。
! 1コマ設定・トリミング設定のあとに全コマ指定を行うと、1コマ設定で設定したコマ数とトリミング設定は解除されます。

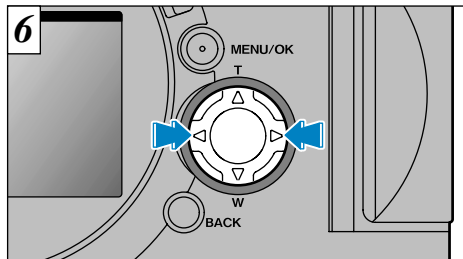
! 指定できるプリント枚数は1コマにつき99枚までです。また、同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。
! 画像を選ぶときはマルチ再生(➡33ページ)すると便利です。

〈トリミング設定する場合〉 3～5

❶プリント枚数を指定したあとで、“SHIFT”ボタンを押しながら❷“MENU/OK”ボタンを押すと、トリミング設定画面になります。

❶“▲▼”でズームします。
❷“SHIFT”ボタンを押しながら“▲▼◀▶”を押すと、トリミングする範囲を移動することができます。

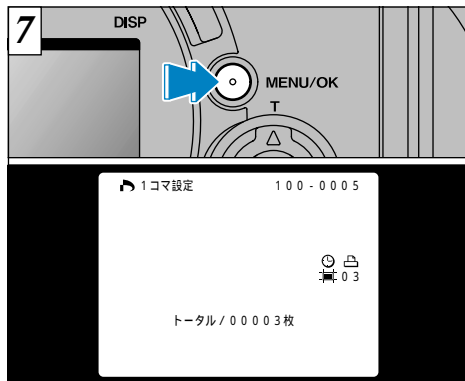
4

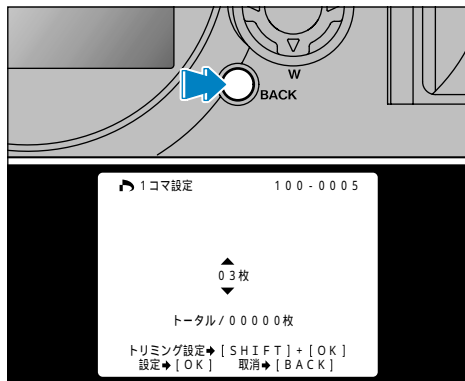
❗640×480ピクセルの画像はトリミング設定できません。

❗トリミングできる最小ピクセル数は640×480相当までです。

トリミング設定を確認後、“ MENU/OK ”ボタンを押すと決定されます。

他のコマを設定したい場合は“ ◀▶ ”で選び、続けてプリント枚数を指定できます。

❗DPOFのトリミングはプリント作成時のみ反映されます。画像を再生するときは反映されません。

❗“ ◀▶ ”でコマを送ると、自動的に設定が決定されます。

〈実行する場合〉

設定が終わったら、必ず“ MENU/OK ”ボタンを押して決定してください。トータル枚数が表示され、メニューに戻ります。
確定したコマには“ とプリント枚数 ”、日付設定ありの場合は“ ”、トリミング設定ありの場合は“ ”が表示されます。

〈キャンセルする場合〉

キャンセルした場合は、設定中のコマのみ無効になります。設定中のコマ以外の設定はキャンセルされません。

4

！“ トータル ”は指定したプリント枚数の合計です。

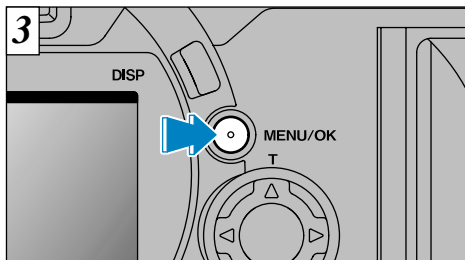
確認/解除

❶“ ▲▼ ”で“ 確認/解除 ”を選びます。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押します。

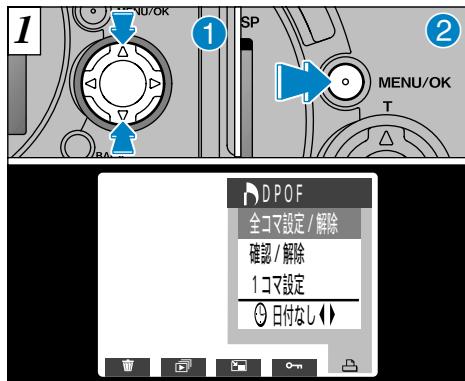
“ ◀▶ ”を押すと、プリント枚数設定をしたコマだけを確認できます。各コマの設定は画面の右端に表示されます。

❗画像を選ぶときはマルチ再生（➡33ページ）すると便利です。

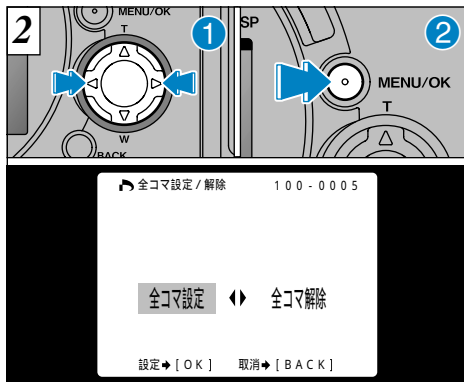
❗確認/解除をやめたい場合は、“ BACK ”ボタンを押しメニューに戻ります。メニューを終了するには、もう一度“ BACK ”ボタンを押してください。

3

プリント設定を解除するには、解除したい画像を表示し“ MENU/OK ”ボタンを押します。
プリント設定の解除が終わると次の画像が再生され“ このコマをDPOF解除 OK？ ”が表示されます。

すべてのプリント設定が解除されている場合“ トータル ”は“ 00000枚 ”になり、背景が黒い画面になります。

プリント設定の解除を続けるには、2からの操作を繰り返します。

①“ ▲▼ ”で“ 全コマ設定/解除 ”を選びます。
②“ MENU/OK ”ボタンを押します。

4

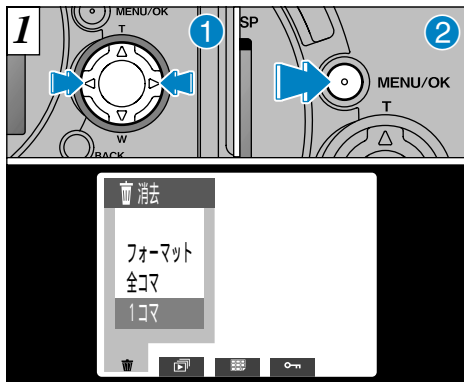
全コマ設定/解除

❶“◀▶”で“全コマ設定”か“全コマ解除”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押して設定します。

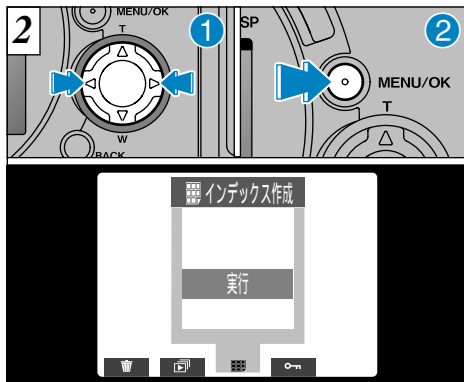
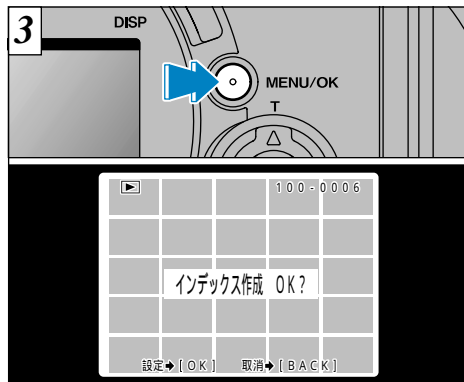
液晶モニターにトータル枚数が表示され、その後メニューに戻ります。

❗“全コマ設定”は、すべての画像を1枚ずつプリントする設定をします。
❗1コマ設定での設定とトリミング設定は解除されます。

❗同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は、999コマまでです。1000コマ以上の指定をすると“ ❗DPOF FILE ERROR ”警告が出ます（➡118ページ）。
❗“トータル”は指定したプリント枚数の合計です。
❗全コマ解除した場合“トータル”は“00000枚”になります。

インデックス作成

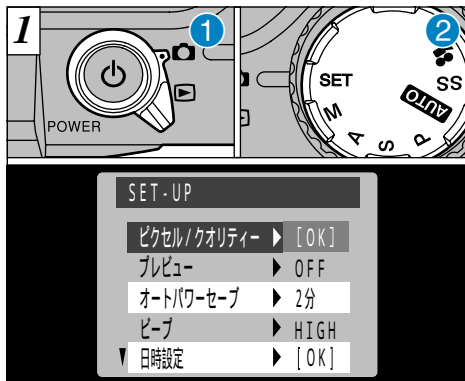
インデックス作成は、ムービーファイルを選択しているときのみ設定できます。
ムービーを再生しなくても内容がわかるインデックス画像を作成します。
ムービーファイルから25コマの画像を等間隔で抜き出して、1つの画像（1600×1200）に並べて保存する機能です。

❶“◀▶”でムービーファイルを選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押してメニューを表示します。

❗ムービーの記録時間によって、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。

❶“ ◀ ▶ ”で“ インデックス作成 ”を選びます。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押します。

インデックスのプレビュー画面が表示されます。記録する場合は“ MENU/OK ”ボタンを押します。

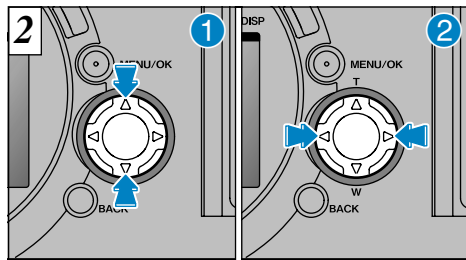
❗記録しない場合は“ BACK ”ボタンを押し、メニューに戻ります。メニューを終了するにはもう一度“ BACK ”ボタンを押してください。

SET セットアップ ▶設定事項は次のとおりです。

項　目	表　示	工場出荷時	内　　容
ピクセル/クオリティー	OK	2400×1800 NORMAL	記録するピクセル（画像サイズ）/クオリティー（圧縮率）を設定できます。詳しくは、97ページをご参照下さい。
プレビュー	ON/OFF	OFF	撮影後にプレビュー画面（撮影結果）を表示するかどうかを設定出来ます。詳しくは、98ページをご参照ください。
オートパワーセーブ	2分/5分/OFF	2分	何も操作していないときに消費電力を抑え、その後、自動的に電源を切るかどうか設定できます。詳しくは、100ページをご参照ください。
ビープ♪	HIGH/LOW/OFF	HIGH	操作したときの“ ピッ ”の音量を切り換えます。
日時設定	OK	—	日付、時刻を設定できます。詳しくは、18ページをご参照ください。
コマNO.メモリー	ON/OFF	OFF	コマNO.メモリー機能を使用するかしないかを切り換えます。詳しくは、101ページをご参照ください。
オールリセット	OK	—	日付・時刻とカスタムホワイトバランス測定値、EVF/LCDの設定を除く、全ての設定を工場出荷設定にリセットします。“ MENU/OK ”ボタンを押すと確認画面が表示されるので、よろしければもう一度“ MENU/OK ”ボタンを押してください。

＊操作のしかたは次のページをご参照ください。

❶モードレバーを“ 📷 ”に合わせます。
❷モードダイヤルを“ SET ”に合わせ、SET-UP 画面を表示します。

❶“ ▲▼ ”を押して項目を選択します。
❷“ ◀▶ ”で設定を変更できます。

❗電池を交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずに電池カバーを開けたりACパワーアダプターを抜くと、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

❗“ ピクセル/クオリティー ” 日時設定 ” オールリセット ”は“ MENU/OK ”ボタンを押します。

ピクセル（画像サイズ）/クオリティー（圧縮率）設定

4種類のピクセル（画像サイズ）と、3種類のクオリティー（圧縮率）の組み合わせを選べます。目的に応じた設定をしてください。

プリントをきれいに仕上げるには

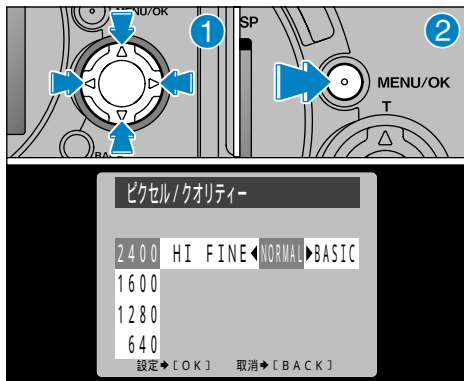
できるだけ大きな画像サイズで、非圧縮（HI）または低い圧縮率（FINEかNORMAL）を使用します。ただし、1コマのデータ容量が大きくなるため、撮影可能枚数は少なくなります。

インターネット用途で使用するには

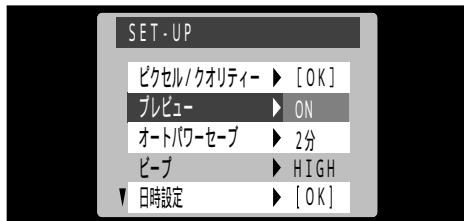
パソコンの画面で見ることが目的なので、小さな画像サイズ（640×480など）を使用します。この場合、1コマのデータ容量は小さいため、撮影可能枚数は多くなります。

クオリティー（圧縮率）について

画質を優先する場合は“HI”または“FINE”を、枚数を優先する場合は“BASIC”を選んでください。通常は、“NORMAL”で十分な画質が得られます。

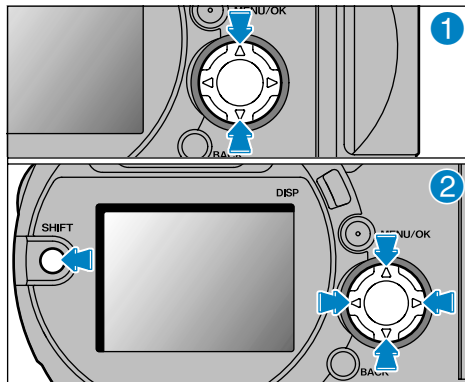
モードレバーが“📷”では（🎥を除く）“SHIFT”を押しながら“⚡”を押すと設定画面になります。

❶“▲▼”でピクセル設定を変更し、“◀▶”でクオリティー設定を変更します。
❷“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

- ピクセルとクオリティーの組み合わせは、全部で9種類になります（➡25ページ）。
- 撮影後の画像をリサイズすることができます（➡78ページ）。

プレビュー表示設定

撮影後にプレビュー画面(撮影結果)を表示するかどうか設定できます。

ON ：プレビュー画面が表示され、画像を記録するかどうか選べます。
記録する場合　：“ MENU/OK ”ボタン
記録しない場合：“ BACK ”ボタン

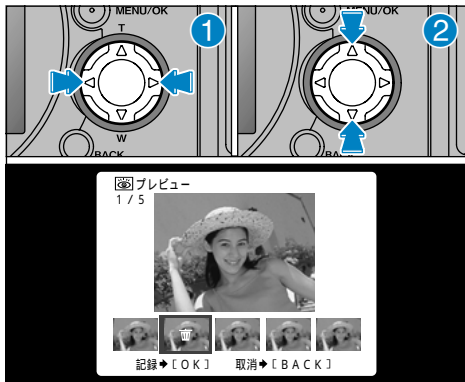
OFF：プレビュー画面は表示されず、画像は自動的に記録されます。

プレビューズーム

プレビュー画面を拡大してピントや細部の確認ができます。

❶プレビュー画面で“ ▲▼ ”を押すと、画像をズームして確認できます。

❷ズームしたあとに“ SHIFT ”ボタンを押しながら“ ▲▼◀▶ ”を押すと、見える範囲を移動できます。

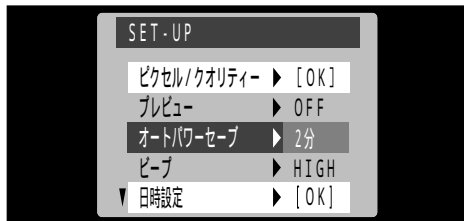
! 撮影モードがムービーではプレビュー表示しません。

連写・オートブラケティングでは

プレビュー表示を“ ON ”にすると、画像を選んで記録できます。

❶“ ◀▶ ”で記録しない画像を選びます。

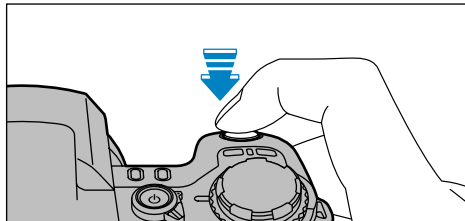
❷“ ▲▼ ”を押すと“ 🗑 ”マークが表示/非表示されます。

記録しない画像すべてに“ 🗑 ”マークを表示し、“ MENU/OK ボタンを押して画像を記録します。

5

オートパワーセーブ設定

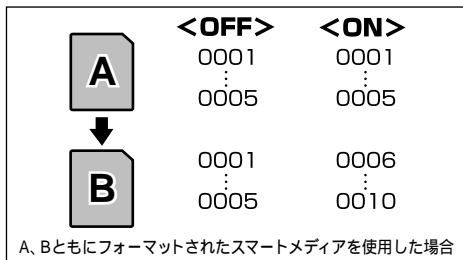
本機能を有効にすると、約15秒間操作をしないと一時的に画面などを消し、消費電力を抑えます（スリープ）。その後、しばらく放置（2分または5分）すると自動的に電源が切れます。バッテリー駆動時間を出来るだけ長くしたいときに使用します。

オートプレイとUSB接続時はオートパワーセーブは無効になります。

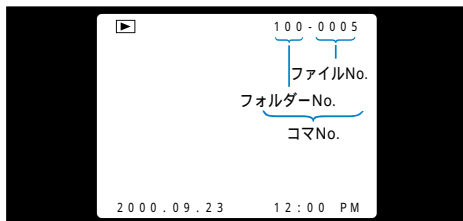
セットアップと再生モードではスリープは機能しませんが、しばらく放置（2分または5分）すると自動的に電源が切れます。

スリープしているときに、シャッターボタンを半押しすると、撮影可能状態に復帰します。電源をON/OFFするよりも、素早く撮影可能になるので便利です。

その他のボタンでも復帰できます（各モードで操作可能なボタンのみ有効）。

コマNO.メモリー設定

A、Bともにフォーマットされたスマートメディアを使用した場合

OFF：スマートメディアごとに「ファイルNo.0001」から撮影
ON：最後に使用したスマートメディアの「最終ファイルNo.」から続けて撮影

“ON”にすると、パソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。

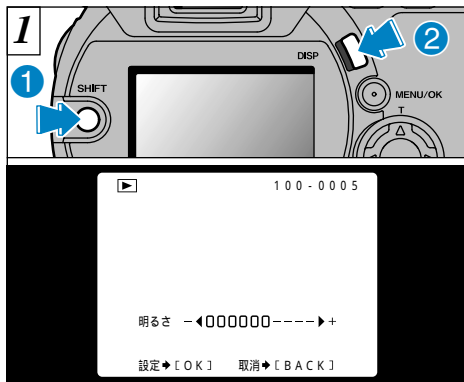
❗記憶した「最終ファイルNo.」より、大きいファイルNo.の画像がスマートメディアにあった場合、大きいファイルNo.の続きから撮影されます。

画像を再生するとファイルNo.を確認できます。画面の右上の7けたの数字のうち下4けたがファイルNo.で、上3けたはフォルダーNo.です。

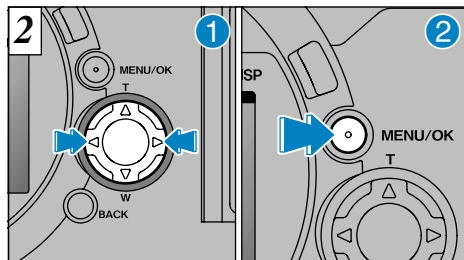
❗スマートメディアを交換するときは、必ず電源を切ってからスロットカバーを開けてください。電源を切らずにスロットカバーを開けると、コマNO.メモリーが機能しません。

❗ファイルNo.は0001から9999までで、それを超えるとフォルダーNo.が1つ繰り上がります。最大で999−9999までカウントされます。

❗コマNO.メモリーを“OFF”にすると、記憶した「最終ファイルNo.」がリセットされます。

❗他のカメラで撮影した画像は、コマNo.表示が異なる場合があります。

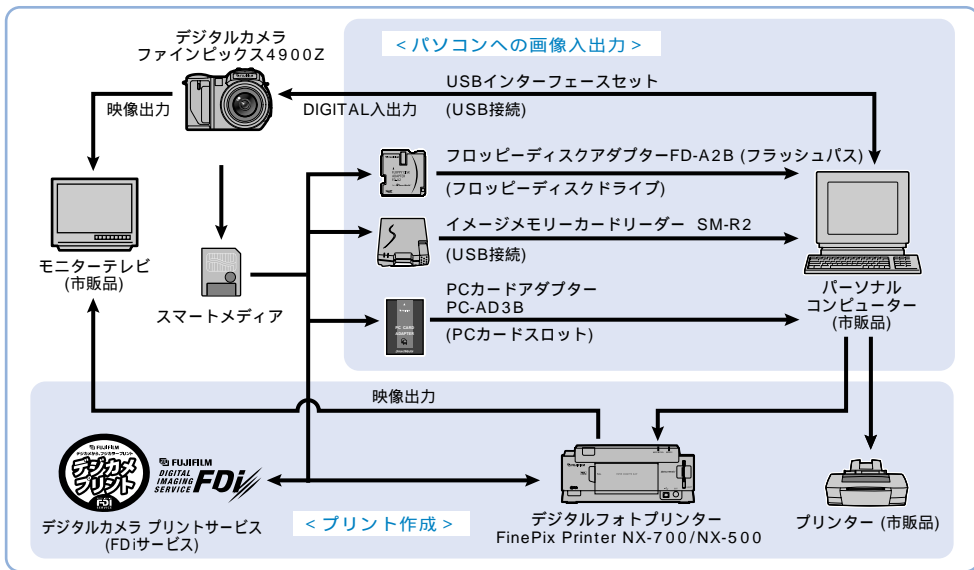
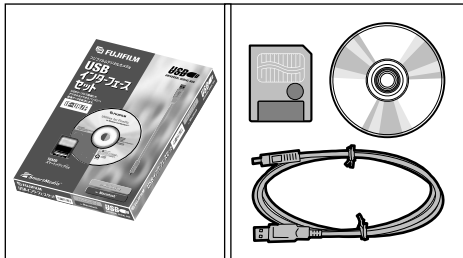
画面の明るさ調節

❶“ SHIFT ”ボタンを押しながら❷“ DISP ”ボタンを押すと“ 調節バー ”が表示されます。

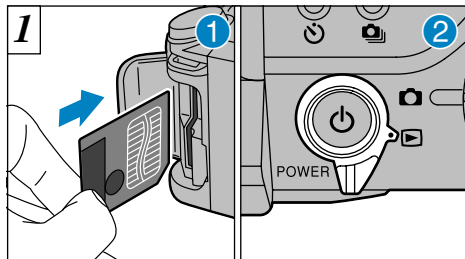
●明るさ調節
モードレバーが“ 📷 ” “ ▶ ”のどちらでも調節できます。

液晶ファインダー・液晶モニターそれぞれの設定が可能です。

❶“ ◀ ▶ ”を押して液晶モニターの明るさを調節します。
❷“ MENU/OK ”ボタンを押して決定します。

! 設定を変更しない場合は、“ BACK ”ボタンを押してください。

システムアップ機器（別売）（平成12年8月現在）

▶別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。詳しくは104～109ページをご参照ください。

USBインターフェースセット IF-UB/Fを使用する場合

- パソコンとカメラを付属のケーブルで接続し、カメラからパソコンへ画像データを転送します。
- Windows98(Second Editionを含む)、Windows 2000 Professional、MacOS 8.5.1〜MacOS9.0で利用可能です。
  ただし、USBポートのある機種(自作パソコンは動作保証外です)に限ります。

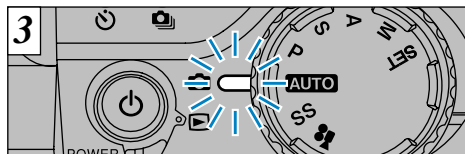
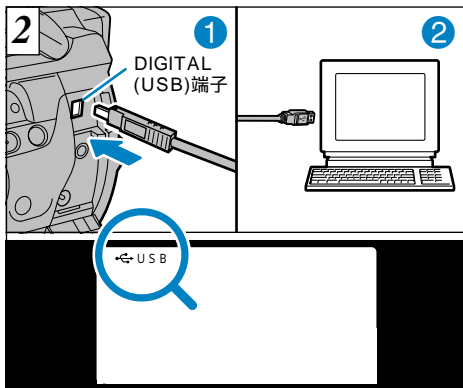
! パソコンでムービー再生をするには、QuickTime 3.0以降のソフトウェアが必要です。また、ムービーファイルをハードディスクにコピーしてから再生してください。

❶スマートメディアをセットしてください。
❷電源を入れてモードレバーを“ ▶ ”に合わせます。

! パソコンと接続されているときは、オートパワーセーブしません。

! ACパワーアダプター AC-5VN/AC-5VH(別売)の接続をおすすめします(➡14ページ)。データ通信中に電源が切れると、正常なデータの転送ができません。

❶カメラのデジタル（USB）端子に専用ケーブルの小さいプラグを接続し、❷もう片方のプラグをパソコン側のUSB端子に接続します。パソコンの電源が入っているとカメラの画面に“ USB ”が表示されます。

❗専用ケーブル以外は使用しないでください。

❗ソフトウエアのインストールのしかたと使いかたは、USBインターフェースセットの「簡単操作ガイド」をご覧ください。

インジケーターランプが橙色に点灯しているときは、“アクセス中”（データ転送中）です。アクセス中は絶対にスロットカバーをあけたり、ケーブルを抜いたり、他の操作をしたりしないでください。

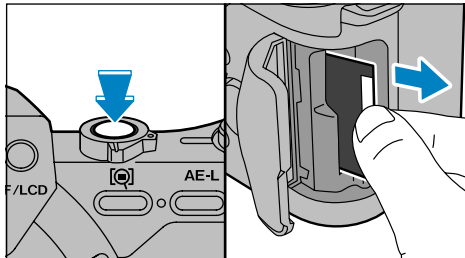
■ExifViewerの撮影情報「露出プログラム」は下記のようになります。

撮影モード	露出プログラム表示
AUTO（オート）	プログラムオート
P（プログラム）	プログラムオート
S（シャッター優先）	シャッター優先オート
A（絞り優先）	絞り優先オート
M（マニュアル）	マニュアル
（ポートレート）	プログラム3
（風景）	プログラム4
（スポーツ）	プログラム2
（夜景）	プログラム4

スマートメディアを交換するときは

● **Windows 98の場合**
インジケーターランプが緑色に点灯していることを確認してください。

● **Windows 2000 Professionalの場合**
インジケーターランプが緑色に点灯していることを確認し、タスクバー上の取り外しアイコンをクリックしてください。

● **Macintoshの場合**
インジケーターランプが緑色に点灯していることを確認し、デスクトップ上の「リムーバブルドライブ」アイコンを「ごみ箱」にドラッグ＆ドロップしてください。

カメラの電源をOFFにして、スマートメディアを交換します。

! スマートメディアを交換後、カメラの電源を入れると再びパソコンと接続されます。

ワイドコンバージョンレンズ/アダプターリングの紹介

ワイドコンバージョンレンズ　WL-FX9

ワイドコンバージョンレンズと、アダプターリングのセット。絞り値を変えずにカメラの焦点距離を0.79倍（広角：28mm相当）に変換します。また、ワイドコンバージョンレンズを外すと市販のフィルターを使用できます。

●ワイドコンバージョンレンズ仕様
倍率：0.79倍　レンズ構成：3群3枚
外形寸法：φ70mm×32mm　質量：約185g
付属品：アダプターリングAR-FX9/仕様は下記参照
　　　　レンズキャップ（前後）
　　　　レンズポーチ

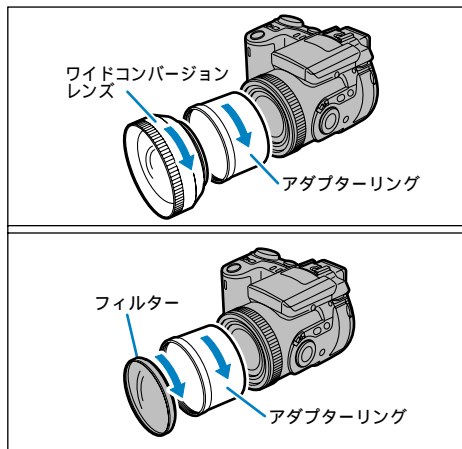
! 広角側（28mm～46mm相当）での使用をおすすめします。望遠側では歪みが大きくなります。

! ワイドコンバージョンレンズ使用時は内蔵ストロボとの併用はできません。

アダプターリング　AR-FX9

市販のフィルターを使用する場合に必要です。

●アダプターリング仕様
使用できるフィルター：φ55mmの市販フィルター
外形寸法：φ58mm×39mm　質量：約30g

! フィルターを2枚以上重ねて使用しないでください。

“アダプターリング　AR-FX9”と“ワイドコンバージョンレンズ　WL-FX9”、市販フィルターは、矢印方向にねじ込んで取り付けます。

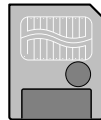
その他、別売アクセサリーの紹介（平成12年8月現在）

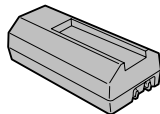
▶使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。

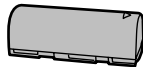
●スマートメディア™

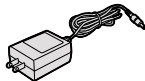
以下の種類がお使いいただけます。

- ●MG-4SB　： 4MB、3.3V仕様
- ●MG-8SB　： 8MB、3.3V仕様
- ●MG-16SB ：16MB、3.3V仕様
- ●MG-32SB ：32MB、3.3V仕様
- ●MG-16SW ：16MB、3.3V仕様（ID付き）
- ●MG-32SW ：32MB、3.3V仕様（ID付き）
- ●MG-64SW ：64MB、3.3V仕様（ID付き）

＊3.3V仕様品の中には「3V」という表示のものがあります。

●バッテリーチャージャー BC-80

充電式バッテリーを短時間で充電します。充電時間は約70分です（NP-80充電時）（AC100～240V、50/60Hz 対応）。

●充電式バッテリー NP-80

リチウムイオンタイプの高容量充電式電池です。

●ACパワーアダプター AC-5VH

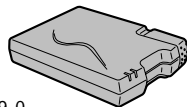
長時間の撮影時、パソコンとの接続時にお使いください。
（AC100～240V、50/60Hz対応）

●フロッピーディスクアダプター FD-A2B（FlashPath：フラッシュパス）

通常の3.5インチのフロッピーディスクと同じ形をしたアダプターです。
スマートメディアをフロッピーディスクアダプターに挿入し、フロッピーディスクドライブからスマートメディアの画像をパソコンに取り込むことができます。

●フロッピーディスクアダプター FD-A2対応OS
Windows 95/98（DOS/V機）
Windows 95 4.00.950B OSR2以降/98（NEC PC-9821シリーズ）
Mac OS7.6.1～8.1/Power Macintosh（読み込みのみ）

●イメージメモリーカードリーダー SM-R2

イメージメモリーカード（スマートメディア）からパソコンに、簡単に画像の読み出し、書き込みができます。USBインターフェースにより高速なデータ転送を行います。

●Windows 98（Second Editionを含む）、Windows 2000 Professional
iMac、およびUSBインターフェースを標準装備するPower Macintosh、Mac OS8.5～9.0

●PCカードアダプター PC-AD3B

スマートメディアをPC Card Standard ATA（PCMCIA2.1/JEIDA4.2）に準拠したPCカード（TYPE Ⅱ）として使えます。

●ソフトケース SC-FX9

合成皮革製の専用ケースです。カメラを持ち運ぶときに、ゴミやほこり、軽い衝撃からカメラを保護します。

パソコンでムービー再生をするには、QuickTime3.0以降のソフトウェアが必要です。また、ムービーファイルをハードディスクにコピーしてから再生してください。

用語の解説

AF/AEロック：このカメラでは、シャッターボタンを半押しするとピントと露出を固定（AF/AEロック）します。画面の端の被写体にピントを合わせたり、露出を決めてから構図を変えたい場合には、AF/AEロックをしてから構図を変えて撮影すると、きれいに撮影できます。

EV：露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。
CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。

Exif（イグジフ）ファイル形式：Exif（イグジフ）は、JEIDA（日本電子工業振興協会）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。

JPEG（ジェイペグ）：Joint Photographic Experts Groupの略
カラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が選択できますが、圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。

Motion JPEG：画像と音声の両方をひとつのファイルで扱うためのファイルフォーマット AVI（Audio Video Interleave）形式の1種類であり、ファイル内の画像はJPEG形式で記録されています。QuickTime3.0～で再生できます。

オートパワーセーブ機能：電池の消耗や、ACパワーアダプター接続時のムダな電力消費を防ぐため、約15秒間操作をしないと画面などを消し（スリープ）、その後しばらくすると電源をOFFします。本機では2分または5分の設定ができます。
- セットアップでオートパワーオフを無効にした場合、またはオートプレイ時やUSB接続時は、オートパワーオフしません。

ホワイトバランス：人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。ホワイトバランスを自動的に合わせる機能を**オートホワイトバランス**といいます。

使用上のご注意

▶ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- ●湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- ●直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ。極端に寒いところ
- ●振動の激しいところ
- ●油煙や湯気の当たるところ
- ●強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- ●防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■砂がかからないようにしてください。

砂は本機の大敵です。海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因となるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴（結露）がつくことがあります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、スマートメディアに水滴がつくことがあります。このようなときはスマートメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、バッテリー、スマートメディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- ●レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- ●レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- ●カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因となります。

■海外で使うとき

- ●このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内のサービスステーションにご相談ください。
- ●海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因となることがあります。

電源についてのご注意

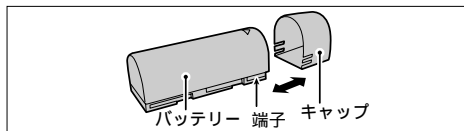
バッテリーについてのご注意

このカメラは、充電式リチウムイオンバッテリーを使用しています。ご使用に際しては、以下の点にご注意ください。特に別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくご使用ください。

＊NP-80は出荷時にはフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。

●ご使用になるときは、必ずキャップを外してください。

●バッテリーを持ち運ぶときは、デジタルカメラに取り付けるかキャップをお使いください。

●バッテリーを保管するときは、キャップを付けて保管してください。

■バッテリーの特性

●バッテリーは使わなくても、少しずつ放電しています。撮影の直前（1～2日前）に充電したバッテリーを用意してください。

●バッテリーを長く持たせるには、できるだけこまめに電源を切ることをおすすめします。

●寒冷地では、撮影できる枚数が少なくなります。充電済みの予備バッテリーをご用意ください。また、使用時間を長くするために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付けてください。カイロをお使いになる場合は、直接バッテリーに触れないようにご注意ください。低温時に消耗した電池を使用すると、カメラが作動しない場合があります。

■充電について

●ACパワーアダプター AC-5VN/AC-5VH（付属または別売）を使用して、本体で充電ができます。使いきったバッテリーの充電時間は約5時間です。別売のバッテリーチャージャー BC-80を使用すると、約70分でバッテリーを充電できます。

●このバッテリーは、充電の前に放電したり、使いきったりする必要はありません。

●充電が終わったあとや使用直後に、バッテリーが熱を持つことがありますが、異常ではありません。

●充電は周囲の温度が0℃～＋40℃の範囲で可能ですが、バッテリーの性能を十分に発揮させるためには、約＋10℃～＋30℃の範囲で充電してください。

●充電が完了したバッテリーを再充電しないでください。

■バッテリーの寿命について

常温で使用した場合、300回以上繰り返して使えます。使用できる時間が著しく短くなったときは、バッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

保存上のご注意

リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。

●しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
●長期間保存する場合は、年に一回程度充電した後、使い切ってから保存してください。
●使用しないときは必ずバッテリーをデジタルカメラや、バッテリーチャージャーから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使用できなくなる恐れがあります。
●キャップを付けて、涼しいところで保存してください。
・周囲の温度が15℃〜25℃くらいの乾燥したところをおすすめします。
・暑いところや極端に寒いところは避けてください。

危険ですので、次のことにご注意ください

⚠バッテリーの金属部分に、他の金属が触れないようにしてください。
⚠火気に近づけたり、火の中に投げ込んだりしないでください。
⚠分解したり、改造したりしないでください。

壊れたり、寿命が短くなったりしますので、次のことにご注意ください

●強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。
●水にぬらさないようご注意ください。

バッテリーの特性に合わせて上手にお使いいただくために、次のことにご注意ください

●端子は常にきれいにしておいてください。
●温度が上がらない、乾燥した場所に保管してください。長期間高温の場所に置いておくと寿命が短くなります。

長時間、バッテリーで使用していると、カメラ本体やバッテリーが熱を帯びますが、故障ではありません。長時間の撮影、再生にはACパワーアダプターをお使いください。

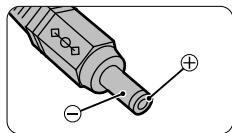
■小形充電式電池のリサイクルについて

このマークは小形充電式電池（リチウムイオンバッテリーなど）のリサイクルマークです。小形充電式電池は埋蔵量の少ない高価な希少資源を使用していますが、これらの金属はリサイクルして再利用できます。
このようにリサイクルすることは、ゴミを減らし、環境を守ることにつながります。ご使用済みの小形充電式電池の廃棄に際しては、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープをはって、小形充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

主な仕様	
	公称電圧：3.7 V
	公称容量：1300 mAh
	使用温度：0℃〜＋40℃
	本体外形寸法：19.8×20.4×55.5 mm
	質量：約40g

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。

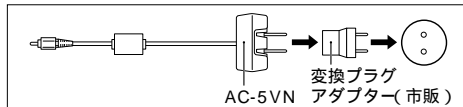
電源についてのご注意

ACパワーアダプターについてのご注意

本機には、必ず専用のACパワーアダプター AC-5VN（EIAJ規格・極性統一形プラグ付き）またはAC-5VH（別売）をお使いください。

AC-5VN/AC-5VH以外のACパワーアダプターをお使いになると本機の故障の原因となることがあります。

- ●室内専用です。
- ●デジタルカメラのDC入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- ●デジタルカメラのDC入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源スイッチを切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- ●本機は、指定の機器以外には使用しないでください。
- ●使用中、本機が熱くなるときがありますが故障ではありません。
- ●分解したりしないでください。危険です。
- ●高温多湿のところでは使用しないでください。
- ●落としたり、強いショックをあたえないでください。
- ●内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ●ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

海外へお持ちになる方へ

本体にある定格表示が、AC-100～240V、50/60Hzと表示されているACパワーアダプターは、世界中のほとんどのホテルおよび家庭用電源で使用できます。ただし、電源コンセントの形状は各国、各地さまざまですので、お出かけ前には旅行代理店などでお確かめください。

本機を海外旅行者用として市販されている「電子式変圧器」などに接続しますと、故障することがありますので、ご使用にならないでください。

主な仕様

電源	AC 100～240V、50/60Hz
定格入力容量	20VA±20%（入力100V～240V、定格出力時）
定格出力	DC 5V、1.5A
使用温度	0℃～＋40℃
保存温度	－10℃～＋70℃
最大外形寸法	48×26×70mm (幅/高さ/奥行き)
質量	約120 g
接続コード長さ	約2m

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。

スマートメディア™についてのご注意

■スマートメディアについて

デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体SmartMedia（スマートメディア）です。スマートメディアの中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像データが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像データを消去したり、再び記録することができます。

■ID付きスマートメディアについて

SmartMedia ID（ID付きSmartMedia）は、スマートメディア個々に（ID）番号を割り振ったもので、IDを利用した著作権保護、その他の仕組みを持つ機器で使用できます。本機では、従来のスマートメディアと同様に使用できます。

■データ保持について

以下の場合、記録したデータが消滅（破壊）することがあります。記録したデータの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

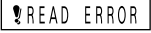
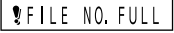
＊お客様または第三者がスマートメディアの使いかたを誤ったとき
＊スマートメディアが静電気・電気的ノイズの影響を受けたとき
＊スマートメディアに記録動作中・消去（フォーマット）動作中にスマートメディアを取り出したり機器の電源を切ったとき

大切なデータは別のメディア（MOディスク、フロッピーディスク、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■取扱上のご注意

- スマートメディアに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- スマートメディアの記録中・消去（フォーマット）中は、絶対にスマートメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。スマートメディアが破壊されることがあります。
- 指定された以外のスマートメディアはお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因となります。
- スマートメディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
- 強い静電気・電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用・保管は避けてください。
- 高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用・保管は避けてください。
- スマートメディアの接触面（金色の部分）にゴミや異物がつかないように、また触らないようにご注意ください。汚れは乾いた柔らかい布などでふいてください。
- スマートメディアの持ち運びや保管時は、静電気に

スマートメディアTMについてのご注意

よる影響を避けるため、必ず専用の静電気防止ケースに入れてください。また、収納ケースがある場合は収納ケースに入れてください。

- 静電気を帯びたスマートメディアをカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出したスマートメディアが温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- スマートメディアには寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- インデックスエリアには、付属のインデックスラベルをはってください。市販のラベルなどは、はらないでください。スマートメディアの出し入れの際、故障の原因になります。
- インデックスラベルは、ライトプロテクトエリアにかからないように、はってください。
- 万一、当社の製造上の原因による初期品質不良がありました場合には、同数の新しいスマートメディアとお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■スマートメディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのスマートメディアを使って撮影する場合、スマートメディアのフォーマットはカメラで行ってください。
- スマートメディアをカメラでフォーマットして撮影・記録すると、自動的にフォルダーが作成されます。画像データは、このフォルダー内に記録されます。
- パソコンでスマートメディアのフォルダー名、ファイル名の変更・消去などの操作を行わないでください。スマートメディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- スマートメディア上の画像データの消去はカメラで行ってください。
- 画像データを編集する場合は、画像データをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像データを編集してください。

■主な仕様

形　　式	デジタルカメラ用イメージメモリーカード SmartMedia（スマートメディア）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃～＋40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	37mm×45mm×0.76mm（幅/高さ/厚み）

警告表示

▶液晶モニターに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示 液晶モニター	警告内容	処　　置
（電池マーク）（赤点灯）	カメラのバッテリーの容量が少ない。	バッテリーを交換するか、充電してください。
! NO CARD	スマートメディアが入っていない、または入れている向きが間違っている。	スマートメディア（3.3V仕様）を正しい向きにセットしてください。
! CARD NOT INITIALIZED	スマートメディアがフォーマット（初期化）されていない。	スマートメディアをフォーマットしてください。
! CARD ERROR	• スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 • スマートメディアが壊れている。 • スマートメディアのフォーマットが異常。	スマートメディアの接触面を、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでもERRORの場合はスマートメディアを交換してください。
! CARD FULL	スマートメディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。	画像を消去するか、空き容量のあるスマートメディアを使用してください。
! PROTECTED CARD	スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	誤記録防止状態になっていないスマートメディアを使用してください。
! READ ERROR	正常に記録されていないデータを再生した。	再生することはできません。
! FILE NO. FULL	コマNo.が999―9999に達している。	コマNo.メモリー機能をOFFにして、フォーマットしたスマートメディアに撮影してください。

警告表示

警告表示 液晶モニター	警告内容	処　　置
(手ブレ警告マーク)	シャッター速度が遅く、手ブレを発生しやすい状態。	ストロボ撮影する。ただし撮影シーンやモードによっては、三脚を使用してください。
! PROTECTされています	プロテクトされているコマを消去しようとした。	プロテクトを解除してください。
! AF	AF（オートフォーカス）がうまく働かない。	• 暗い場合は被写体から2.0m以上離れて撮影してください。 • AFロック撮影をしてください。
絞り・シャッタースピード表示（赤点灯）	AE連動範囲外です。	撮影できますが、適正露出ではありません。
DPOF指定されていますこのコマを消去しますか？ DPOF指定されています全コマ消去しますか？	削除しようとした画像はDPOFプリント指定されている。	画像を削除すると、DPOF指定項目からも同時に設定が削除されます。
DPOFファイル再設定　OK？	DPOFファイルにエラーがあります。または、他の機器で設定したDPOFファイルです。	DPOFファイルを新しく作成し、DPOF設定をすべてやり直す場合は“ MENU/OK ”ボタンを押してください。
! DPOF FILE ERROR	DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント指定をした。	同一スマートメディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。
! ZOOM ERROR ! FOCUS ERROR	• カメラが誤作動または故障しています。	• レンズ部に触らないようにして、電源を入れ直してください。 • 電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションにお問い合わせください。

故障とお考えになる前に

▶故障と思う前に、もう一度お調べください。

症　　状	原　　因	処　　置
電源が入らない。	●バッテリーが消耗している。 ●ACパワーアダプターの電源プラグがコンセントから外れている。	●充電済みのバッテリーと交換する。 ●電源プラグをコンセントに差し込む。
電源が途中で切れる。	●バッテリーが消耗している。	●充電済みのバッテリーと交換する。
電池の消耗が早い。	●温度が極端に低いところで使っている。 ●端子が汚れている。 ●バッテリーの寿命。	●バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに取り付ける。 ●バッテリーの端子部分を乾いたきれいな布でふく。 ●充電済みの新しいバッテリーと交換する。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●スマートメディアが入っていない。 ●スマートメディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。 ●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。 ●スマートメディアがフォーマットされていない。 ●スマートメディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●スマートメディアが壊れている。 ●オートパワーセーブになり、電源が切れた。	●スマートメディアを入れる。 ●新しいスマートメディアを入れるか、コマを消去する。 ●誤記録防止状態を解除する。 ●フォーマットする。 ●スマートメディアの接触面を乾いたきれいな布でふく。 ●新しいスマートメディアを入れる。 ●電源を入れる。

故障とお考えになる前に

症　　状	原　　因	処　　置
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●バッテリーが消耗している。	●充電済みのバッテリーと交換する。
ストロボ撮影ができない。	●モードレバー、モードダイヤルの設定位置がずれている。 ●ストロボ発光禁止になっている。（ストロボが閉じている） ●ストロボ充電中にシャッターボタンを押した。	●モードレバー、モードダイヤルを正しい位置に設定する。 ●ストロボをポップアップする（ストロボ撮影できないモードがある（➡37ページ）。モードを切り換える）。 ●充電が完了してからシャッターボタンを押す。
ストロボの充電ができない。	●記録できるスマートメディアが入っていない。 ●ストロボ発光禁止になっている。 ●バッテリーが消耗している。	●新しいスマートメディアを入れる、コマを消去する、誤記録防止状態を解除する。 ●ストロボをオート、赤目軽減または強制発光にする。 ●充電済みのバッテリーと交換する。
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	●被写体が遠い。 ●ストロボに指がかかっている。	●被写体に近づく。 ●カメラを正しく構える。
画像がぼやけている。	●レンズが汚れている。 ●マクロで遠景を撮影した。	●レンズを清掃する。 ●マクロを解除する。

症　　状	原　　因	処　　置
スマートメディアのフォーマットができない。	●スマートメディアが誤記録防止状態になっている。	●誤記録防止状態を解除する（ライトプロテクトシールをはがす）。
全コマの消去で、すべてのコマが消せない。	●コマがプロテクトされている。	●プロテクトを解除する。
カメラのレバーやダイヤルを操作しても作動しない。	●カメラの誤作動。 ●モードレバー、モードダイヤルの設定位置がずれている。 ●バッテリーが消耗している。	●電源（バッテリー）をいったん取り外して、再び取り付け直してから操作する。 ●モードレバー、モードダイヤルを正しい位置に設定する。 ●充電済みのバッテリーと交換する。
“ DISP ”ボタンを操作しても液晶モニターに画像が表示されない。	●モードレバー、モードダイヤルの設定位置がずれている。	●モードレバー、モードダイヤルを正しい位置に設定する。
テレビに画像が出ない。	●カメラとテレビの接続が間違っている。 ●テレビの入力が「テレビ」になっている。	●正しく接続する。 ●テレビの入力を「ビデオ」にする。

主な仕様

システム

●**型式：**デジタルカメラ
●**記録メディア：**スマートメディア（3.3V仕様）
●**記録方式：**
静止画：DCF準拠（Exif Ver.2.1 JPEG準拠）/ DPOF対応
動　画：DCF準拠（AVI形式 Motion JPEG）
●**記録画素数（ピクセル）：**
2400×1800/1600×1200/1280×960/640×480
ハニカム信号処理により最大432万画素
●**撮像素子：**1/1.7型スーパーCCDハニカム
原色フィルター採用（総画素数：ハニカム配列の240万画素）
●**撮像感度：**ISO 125、200、400、800相当

●**レンズ：**スーパーEBC フジノン光学式6倍ズームレンズ
●**焦点距離：**7.8mm～46.8mm
（35mmカメラ換算：35mm～210mm）
●**ファインダー：**0.55型11万画素液晶ファインダー
●**露出制御：**TTL64分割測光、プログラムAE（AUTO、シーンセレクト、プログラム、絞り優先オート、シャッター優先オート）、マニュアル
●**ホワイトバランス：**
オート（プログラム、絞り優先オート、シャッター優先オート、マニュアル時：7ポジション選択可能、カスタムホワイトバランス設定可能）
●**撮影可能範囲：**
標　準：約50cm～無限遠
マクロ：約10cm～80cm

●**スマートメディア標準撮影枚数**
撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はスマートメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル	2400×1800				1600×1200		1280×960		640×480	ムービー
クオリティー	HI	FINE	NORMAL	BASIC	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	NORMAL	——
画像1枚のデータサイズ	約12715KB	約1700KB	約810KB	約330KB	約770KB	約390KB	約620KB	約320KB	約90KB	——
MG-4S（4MB）	0	2	4	11	4	9	6	12	44	22秒
MG-8S（8MB）	0	4	9	23	10	19	12	25	89	45秒
MG-16S（16MB）	1	8	19	46	20	39	25	49	163	90秒
MG-32S（32MB）	2	18	38	94	41	79	50	99	330	182秒
MG-64S（64MB）	5	36	77	189	82	159	101	198	663	364秒

●**シャッター：**
可変速　3秒〜1/2000秒（メカニカルシャッター併用）
●**絞り：**F2.8〜F11　1/3ステップ　13段
●**フォーカス：**TTLコントラスト方式　オート/マニュアル
●**セルフタイマー：**タイマー時間　約2秒/約5秒
●**消去方式：**1コマ消去・全コマ消去・フォーマット（初期化）
●**液晶モニター：**2型　13万画素　低温ポリシリコンTFT
●**ストロボ：**調光センサーによるオートストロボ
撮影可能距離　広角：約0.3m〜4.5m
望遠：約0.9m〜4.0m
発光モード：オート/赤目軽減/強制発光/スローシンクロ/赤目軽減＋スローシンクロ

入・出力端子

●**VIDEO OUT端子：**
ステレオミニ（φ3.5mm）ジャック
●**デジタル（USB）端子：**
パソコンへのデータの転送
●**DC入力端子：**
専用ACパワーアダプター AC-5VN/AC-5VH接続

電源部、その他

●**電源**
充電式バッテリーNP-80（付属）または専用ACパワーアダプターAC-5VN（付属）またはAC-5VH（別売）使用
●**使用条件：**
温度0℃〜＋40℃　湿度80%以下（結露しないこと）

●**バッテリー撮影可能枚数（バッテリーをフル充電した場合）**

電池の種類	液晶モニター使用時	液晶ファインダー使用時
バッテリー（NP-80）	約100枚	約120枚

常温でストロボ使用率50%の場合の、連続して撮影できる枚数のめやすです。ただし、カメラの使用環境温度やバッテリー充電量のバラツキによる変動があります。
●**本体外形寸法：**
110mm×78.5mm×93.5mm（幅/高さ/奥行き）
＊付属品、突起部含まず
●**本体質量：**
約410g（付属品、バッテリー、スマートメディア含まず）
●**撮影時質量：**
約450g（バッテリー、スマートメディア含む）
●**付属品：**5ページをご覧ください。
●**別売アクセサリー：**103〜109ページをご覧ください。

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊液晶モニターは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

■それでも調子が悪いときはサービスステーションへ

お買上げ店、または弊社サービスステーションにご相談ください。

■保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■修理部品の保有期間

本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年をめやすに保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■修理ご依頼に際してのご注意

- 保証規定による修理をお申し出になる場合には、必ず保証書を添付してください。
- お買上げ店や弊社サービスステーションで、ご指定の修理箇所、故障内容を詳しくご説明ください。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金が高く見込まれる修理のときは、「○○○○円以上は連絡してほしい」と料金をご指定ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。
- 修理に関係のない付属品類は、紛失などの事故を避けるため、修理品から取り外してお手もとに保管してください。
- 修理のために製品を郵送される場合は、ご購入時の外箱に入れてしっかり包装し、必ず書留小包でお送りください。
- 修理期間は故障内容により多少違いますが、厳重な調整検査を行いますので普通修理品の場合は弊社サービスステーションで、お預かりしてから通常7～14日位をご予定ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

■型名　　　：ファインピックス4900Z
■故障の状況：できるだけ詳しく
■ご購入年月日